

# ばんえい

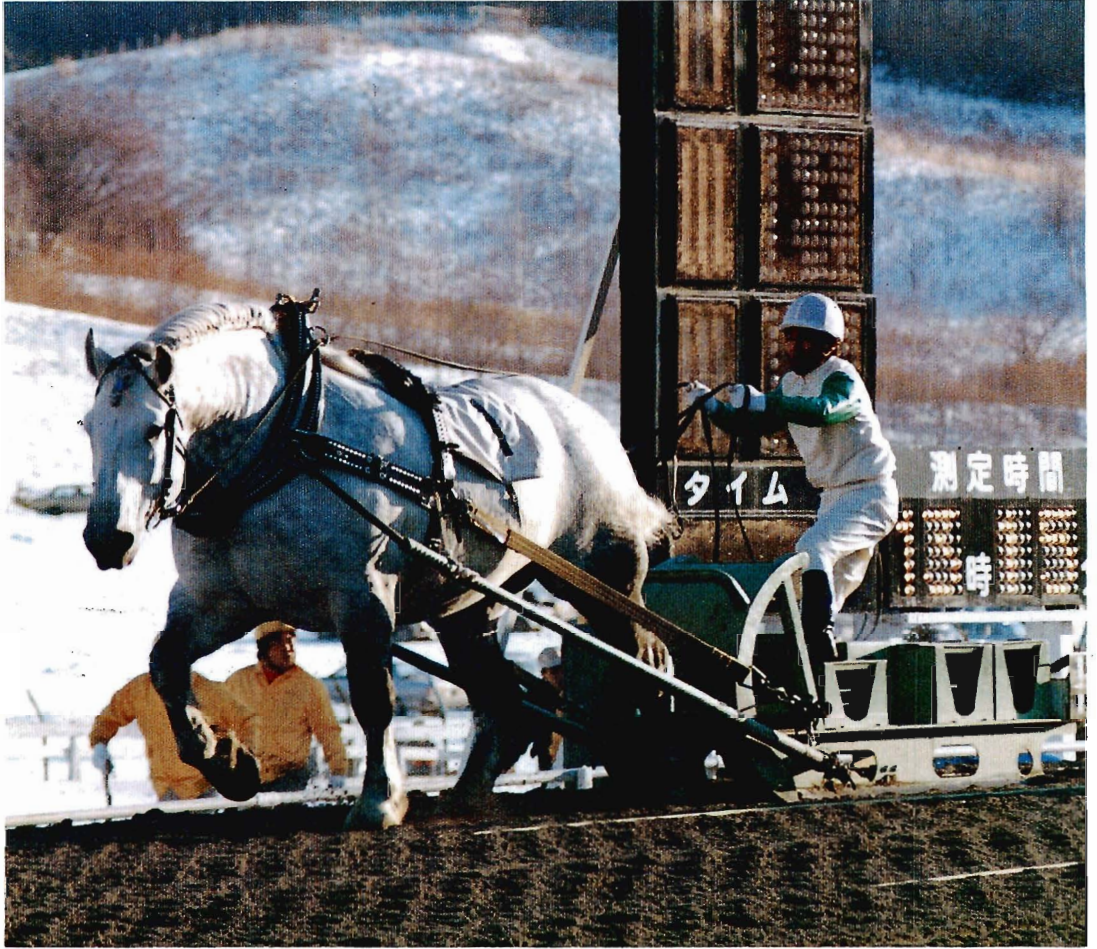
DRAFT. RACE

NO. 18



## 目 次

会報発刊に寄せて……………	坂東 徹……………	3
近代化の元年たれ……………	白岩 歳三……………	4
辰年に思う……………	秋山 厚三……………	5
好成績の中で……………	小山 健一……………	6
騎乗騎手一年目に思う……………	前原 陽介……………	8
ばんえい競馬卯年に跳ねる……………	大原 尚……………	10
マスコミに取り上げられたばんえい……………		14
ばんえい便り……………		21
祭典ばんば……………		24
昭和63年度番組編成要領……………		28
昭和63年度報償費支給基準……………		30
昭和62年度種雄馬ランキング……………		32
昭和62年度賞金受賞ランキング……………		33
昭和62年度市営、ホッカイドウ競馬成績……………		34
昭和62年度リーディング……………		35
昭和62年度引退馬……………		36
昭和63年度市営、ホッカイドウ競馬日程表……………		43



# 会報発刊に寄せて

北海道市営競馬協議会

会長 坂東 徹

競馬関係者各位の御健勝を、心からお喜び申し上げます。

昭和五十五年をピークに低落傾向を続けていた勝馬投票券の発売成績も、昭和六十一年に至り全国的に好転のきざしが現れて参りましたが、ばんえい競馬については、ようやく

昨年昭和六十二年で二十二回を開催し、百三十二日間、二百四十八億四千万余円で、前年対比百十六・八%と久し振りに上昇し好成績を挙げる事ができ、ここ数年来不振に耐えてきた苦勞がやっと報われましたことを、心からお喜び申し上げます。これも一重に競馬関係者の努力の賜ものと衷心より厚くお礼と感謝を申し上げる次第であります。

この好成績の原因を幾つか拾ってみると、先ず第一に、映像伝送でございますが、昭和六十年ホッカイドウ競馬で試験的に実施し、驚異的な大成を収めた実績に基づき、主催四市間で充分協議を重ね決断したものであり、年度当初から相互場外の売上げに威力を発揮し、ファンからも好評を得て順調な推移をみたのであります。

第二としては、単独場外の新設であります。年度途中ではありましたが、ホッカイドウ競馬と相乗りで計画し十月十九日オープンしました、旭川レーシングセンターも、予想以上の飛躍的成果を収めることができました。

この施設は今後ばんえい競馬発展のために、大きな力となることと思っております。

本場と場外の売上げ比率は本場五十三%場外四十七%となっており、前年六十一年は本場六十五%場外三十五%からみて、飛躍的に場外の比率が増加していることがわかります。このことは全国的傾向でもあります。他種競技(競輪・競艇等)においても、このような観点から場外発売に力を入れてくるのは必定と考えられますので、正に場外エリア拡大の戦いがくりひろげられることと思っております。

如何にこれ等と協調しエリア拡大をはかるかが今後のばんえい競馬盛衰の課題であり、ファンに愛され喜ばれる運営を推進することが鍵であると思っております。

第三には競馬場本場における、各種イベント開催であります。

競馬場本場の入場人員は、場外の盛況に比べ年々減少の一途をたどっているが、如何に本場の入場人員減を食い止めファンに來場していただくかについて、各主催者は最大の努力を払ってきたところであり、公正競馬を施行することは勿論のこと、レース編成・走路障害の整備等万全の対策を講じて競馬運営を図ってきたところであります。

またファンに明るい環境の競馬場で、レジャーを楽しんでいただき親しみのもてる競馬を観てもらうために、各種イベントを実施して参りました。

特に昨年は競馬ファンに、地方競馬全国協会が行なう畜産フェア普及特別対策事業で畜産物(乳肉製品)の配布を行ない、畜産物の普及消費拡大を大いに推進することができました。

なおこれに併せて、北海道公営競馬振興協議会の冠レーススエズ松特別競走を実施する等イベントを盛大に推進し好評を博しました。

このファンに愛されるイベントを、今後永続的に続けて参る所存であります。

厳しい状況の中で、愛されるばんえい競馬を育て発展させるためにも、今後とも関係者皆様の一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げ、会報発行のご挨拶といたします。

# 近代化の元年たれ

北海道市営競馬協議会

参事 白岩 歳 二

長期低迷期に別れを告げ、久し振りに明るさが戻ってきた昨今の競馬界ですが、公営競技全般では昭和六十年代から上昇気流に乗っていたのに対し、ばんえい競馬ではようやく昭和六十二年度に好調期に入った模様で、この二年近いずれは北海道経済の特徴の一面を覗かせているのであろうか。

かつて、オイルショックの影響からか、昭和五十年代前半に地方競馬全体に陰りが出始めた頃、ばんえい競馬だけは順調に成績を伸ばしていた時期があり、会合ではよく話題となった。当時北海道経済は、本州の経済より遅れるとの通説を実感したことを思い出し、冒頭の現実を見ると、やはりの感を強くする。

今年の景気については、多くの方々が景気回復を基調とした意見が支配的であり、北海道にとしては、特に第一次産業を中心に種々の心配要素を抱えており、更には、競馬事業においても、事業の廃止を決めた主催者もあり、決して

樂觀できる背景ではないが、この七年振りの好転が永續することを祈る気持ちで一杯である。

さて、地方自治体の仕事が統計上の企業分類ではサービスマネジメントであり、なかでも我々の仕事である競馬事業は、まさしくその最たる性質を持つ業種で、ファンの懐具合に直ちに影響を受ける事と併せて、ファンへのサービスに手を抜けば速発売成績が脅かされる事態を迎える運命にあるところから、行政サービスのなかでも特異な存在である。

ばんえい競馬約四十年の歴史の中で、この原点となるファンサービスに真剣に取り組む情勢が生れてきたのは、昭和五十五年度をピークに成績不振時代となり、立ち直りの苦悩のなかから運営に軌道修正が加えられ、本来あるべきファン重視の姿勢が色濃くなって来たここ数年のことではないだろうか。ファン重視の運営については、公営競技全体が不振が続いていたときでも、中央競馬だけは先手、先手とファンサー

ビスに意を注いだことにより、他競技の不振を尻目に毎年順調に前年を上廻る成績を納めてきたことが物語っているようである。

そういう意味で、地方競馬も新しい時代を迎えており、ばんえい競馬もその流れに遅れることなく種々の動きをしているなかであって、先ず何といつても組織を一本化し、強化することに照準を合せ関係者が一日も早い実現に努めているところである。しかし、たとえ組織化されれば整形して美しくなっても、中味が伴わなければファンをはじめ関係者の一本化することによる新しいやり方への期待が強いだけに、むしろ反発は大きく、せっかく盛り返してきた上昇ムードを一転して危機を招く結果となることは明らかである。従って、今やらなければならぬことは、周囲の期待にこたえるため、盤石たる運営を確立するためにも、主催関係者、競技関係者共に、直接事業に係る一人一人が素直にこの事業の原理、原点に立ち帰り、新しい時代の競馬運営にたくましく立ち向い、北海道開拓の生きた遺産として、より一層地域に欠かせないサービス事業に作り上げるため各々が知恵を出し合うことである。併せて、今年は何年にもあやかた、是非近代化の元年にしたいものである。

# 辰年に思う

北海道市営競馬協議会

主 幹 秋 山 厚 三

早いもので、昭和六十一年四月に市営競馬協議会勤務となり、与えられた仕事、会議等にご助言をいただき乍らもあと二か月を過ぎますと二年になります。私は昭和三十八年に岩見沢市役所に奉職し、その間農務課畜産課の係に席を置いている中で約十五年ばんえい競馬開催執務員としてのか、わりがあり、当時「ばんば」と云う言葉、人と馬との躍動、そして勝負での勝を制覇して行く姿に強い印象を受けたものです。此の度は人事移動により宿願である将来のばんえい競馬事業の健全なる発展を目標に、その経営の安定化を構築して行くため、事務組合化への準備事務の仕事をするようになりました。扱辰年にまつわる話として運勢の書物によりますと、辰年生れの人は、普段は范洋としているようで、いったん立ちあがると水を得た竜さながら車にぶつかって行くと言うことです。

又辰の刻は午前七時から九時までの時間帯で、この時間は周囲では何が起こるか判らない時刻だそうです。ですから辰年は変化にとむ事が多く、暗い事件、面白い話題等の多いのも辰年だそうです。どうか今年のばんえい競馬が昇竜の年、そして将来を展望する年になるように成果を期待します。

そこで成績についてみますと、五十五度をビークに低断の時期が長く続いたことをきびしく受けとめながらも各主催者は、脱却をはかるために改善、ファンサービスにとためまぬ経営努力を行ってきているところですが、六十一年度は後半キンタロー一億円馬の誕生等々、回復基調がみられ又六十二年度には全場外発売所にテレビの実況放映、各主催者によるイベントの実施、畜産物フェアによる地場産品のプレゼント等広報活動も積極的に行い、ファンに密着して

実施した事、更に十月からは「旭川レーシングセンター」の開設等により驚異的な発売額の上昇をみました。一方社会環境では雇用状況が悪化している中で、夏ごろから景気が上向き回復に転じたことも幸いしたものと思います。ばんえいファンにとって今年も話題性に富んだ素材があり、活気のある競馬であってほしいと思いますし、ばんえい競馬の開催が公正であり、環境を整え近代化へと常にイメージアップにつとめ、事業を一層充実したものととして改革して行くためにも、主催者が一体化し事務組合による競馬執行が不可欠でないかと考えます。明日への事業を新しい視点で理解を深め、熟した環境を遂行への場として行くためにも事務組合設行を可とすべきではないかと思えます。今日あるばんえい競馬を広く親しまれるものとし近代的公営競馬の発展向上にむけて更に将来へのかけ橋を築いていかなければならないものと考えます。

終りに辰年の戒として「竜は眠りて本体を表わし、人は酔いて本性を現わす」とあります。

# 好成績の中で

北見市農務部長 小山健一

昭和六十三年の会報発刊にあたり、寄稿依頼がありました。

回を重ねて十八回目、関係各位の皆様のご健勝を心よりよろこび申し上げると共に、北海道市営競馬のますますの発展を切に、祈念申し上げます。

さて、私が農務部長として競馬事業に係わりを持ったのが昭和六十二年一月であります。

その当時、多くの先輩、同僚より大変なものを担当することになったというご心配をいただいたところでございます。

昭和六十一年の全国地方競馬は前年比一〇六%と上向きの中で北見市営競馬の開催成績は、八六%と全国のワースト、1という誠に不名誉な成績で多くの皆さんが心配するのは当然であります。私自身、これはエライものを引受けたという意識で一杯でした。

又、私の前任者は北海道議会議員選挙に出馬することで退職し、競馬の神様と言われていた

農務部次長も市の人事異動で替り、北見市営競馬のトップが新人同志という、頭の痛い想いをいたしました。

従前より、初回開催市は成績が良くないという定説があり、北見市の六十一年度はそれにあたるという慰め、あるいは昭和五十五年をピークにして長期低落傾向にあった地方競馬も六十年一度をもって歯止めがかかり、これからは発売成績も上昇が期待出来る等いろいろ耳に入ってきた。いずれにしても、地方競馬を担当する者として、何とかしなければ、私達が新人だからという甘えは許されないと考えてあります。

昭和六十一年度が低落の底であれば、これらの六十二年度は必ず良くなる。それが全国的な数字の中に現われております。私達、競馬関係者が一致協力、一層の努力をすることが必ず良い結果に結びつく等の意識を集中することに致しました。

昭和六十二年度の開催成績については、すでに皆さんご承知のとおり、対前年比一四四%と全国の地方競馬において最高の成績でございます。

この好成績の要因として、まず第一に昭和六十二年当初より、ばんえい競馬の振興策として、四市で実施した光ファイバーによる映像伝送があげられます。各場外発売所において本場の臨場感あふれる画像を大勢のファンの方々にご覧いただき非常に好評でございました。第二としては旭川市内に開設された、旭川レーシングセンターでございます。市内より十四キロ離れていた旭川競馬場より、市内にそれもある程度の駐車場スペースの備えた場外発売所ということで大勢のファンにご利用いただいたことでございます。

第三番目は北海道ばんえい競馬の危機感というところから、四市、並びに市営競馬協議会がスポーツ紙を始めとして各報道関係のご協力を得ながら情報を提供しつつ、大勢のファンにアピールしたこと等が挙げられます。

今、この原稿に向いながら、私達の努力もさることながら、一番大きいのは歴史的に意義深い、北海道のばんえい競馬を守り、育てようとする、各市競馬関係者、北海道ばんえい競馬馬

主会、調騎会の皆様のご支援、ご協力の賜ものと深く感謝申し上げます。

昭和六十三年度の競馬開催を控えて本年も全国的な公営競技の復調ムードの中で、従前にもまして多勢のばんえい競馬ファンのご支持を得るよう工夫、努力を重ね一定の成果を挙げるべく期待をしているところでございます。

これからの北海道ばんえい競馬の課題は競馬の一部事務組合の設立にあると考えております。四市の先輩各位が長い歳月をかけて協議、検討をしてきた経緯より、最終の詰め段階を迎えております。

市営競馬の一部事務組合設立に係わる関係者各位のご理解をいただいて一日も早く、組合に移行し、公営競馬の公正確保と収益事業としての効率的な運営をはかることが歴史ある北海道ばんえい競馬の発展につながるものと思料して一層の精進をする所存でございます。

おわりにあたり、ばんえい競馬の各市主催者及び北海道ばんえい競馬馬主会、調騎会並びに北海道市営競馬協議会のますますのご発展を心よりご祈念申し上げます。



映像伝送システムで大型テレビに放映される本場さながらの迫力あるレース、馬体重、オッズ等種々のデータ、最新式マルチシステム発売機、自動払戻機、広く明るいフロアーと近代的設備を備え場外発売所のイメージを変えた旭川レーシングセンター。



一階	面	積	二六五二㎡
一階	客溜面	積	九八二㎡
座席	数		一五〇席
発売窓	口		四四窓
払戻窓	口		六窓
大型テレビ			十五台



# 騎乗騎手一年目に思う

前原陽介

昭和六十二年、昨年の四月に念願の騎手としての第一歩を歩み始めた時、期待と不安で胸が一杯でした。

昭和三十八年二月に生まれて、二十五年間あまり人前に出たことがなかった僕が、本当に今でも無我夢中です。想えば、初めて馬の背にまたがったのが、小学二年の冬休みだったと思います。僕の父が、現在の調教師になる前の、騎手だった頃でした。

僕の父は、現在でもそうですが、とてもきびしく、無口で、余り喋りません。ただ言葉に出して喋べらない分だけ、何を言いたいのか、僕は考えます。小さい頃から、その父の活躍していた頃のレースはよく見に行ったり、学校の夏休みなどの時、泊まりがけで行ったおぼえがあります。あの頃の競馬場は、今のような設備はあまり整っておらず、今から考えると、それは、それは、不便な様に思われます。

水道などは井戸を使い、建物は木造だったと

思います。僕の小さい頃から、父は一年の間で冬ぐらしいしか居なくて、母も又、高校に在学中の頃は、同じように、父と一緒に歩いて行き、家には、僕と妹の二人きりで春から冬に帰ってくるまで、それが何年か続いた時もありました。こういう光景を目のあたりにしたあの頃、競馬社会で、家族共々生活していかなければならない大変な仕事なんだ、と思うと同時に、やっぱり少しは、さびしい家庭だなあと思いました。現在は、その頃と違って設備はうんとよくなり、それだけ、今の競馬にたずさわっている自分は幸せだと思えます。だけど僕が初めてばんえい競馬という仕事に従事する時、ばんえいは、普通の競馬と違って、馬と騎手との距離があるという点、それも、あの長に手綱を通して、どうあやつって馬に自分の意志を伝えるのか？というはるかにむずかしいことだなあと思いました。馬だって人間と同じでいろいろな性格の馬がいます。まじめで素直な馬、気が強く反抗

的な馬、などいろいろです。言葉に表して喋べらない分、馬が何を言いたいのか、ハミとその馬への接し方によって、人と馬とのかけひきができるんだと思います。騎手という仕事は、僕が考えていた以上にむずかしくて大変でした。馬を相手に、その中で、調教師、馬主、そしてファンの、そのすべての人達に納得のいくレースを、騎手が手綱を取り、やっていかなければなりません。また、その競馬場での人間関係、レースでの追い追われる立場、一年の間で本当にいろいろな勉強をしました。しかし、自分はまだまだです。これからなんだと自分に言い聞かせています。自分で納得してはいけないと思います。自分の意志を、自分の信念を貫き通せと、歯をくいしばれと、父は教えてくれました。一生懸命がんばれと、皆は教えてくれました。昨年は、先輩騎手、調教師の方々がレースについての助言、態度など、いろいろ教えてくれました。

自分の考えとは全く違ったこともありましたが、どうしてこうなんだろう、なぜなんだろうと、何回も思ったり、悩んだりしたこともありましたが。そのたびに、助けてくれた人達も居ました。勝負の世界だから、勝つか、負けるか情は無用だと最初は思いました。しかしその中で、自分

が、こまったことや、わからなかったことに、本当にやさしく教えて下さった人達もいました、そして、その人達に、勝負の世界だからこそ、助け合って生きなければならぬ、助けたり、助けられたり、同じ人間なんだからお互い様だと、教えられたこともありました。人間と馬、そして人間と人間のぶつかり合いなんだ、というこも、教えてくれました。父もまた、その一人でした。

この論文は、騎手としての一年目の自分には、どういう表現で今の自分にとって、この世界の自分の存在感というものは、全くと言っていい程ないので、何を書いているのか、自分にはとまどってしまふ。

今の自分には実績もないし、技術もない、言うなればゼロです。仕事というものは、キャリアアじゃない。努力と情熱とやる気が必要だと思えます。これは、どんな仕事にも言えると思えます。誰の為でもない。自分の為だから、人に教えてもらって、そして、絶え間ない努力が必要だということを。

競馬場にたずさわっている人達、馬を追う人、調教する人、管理する人そして観る人、みんな、馬が好きなんです。ただ素直に、馬が大好きなんです。

### ○農用種雄馬（ばんえい馬）の購買配置

地方競馬全国協会の補助に係るばんえい競走馬からの種雄馬購買は、12月9日北見競馬場で実施した。

北海道市営競馬協議会に依頼して、ばんえい競走登録馬で種雄馬として売却希望の32頭の申込みを7月末にとりまとめ、9月3日帯広競馬場で予備選抜を行い、精液検査対象馬を11頭にしばった。これらの11頭は、9月25日北海道家畜改良事業団道北事業所で精液検査を受け、検査成績に異常のない9頭を購買対象馬とし、ばんえい競馬終了翌日（12月9日）北見競馬場で次の4頭を選定購買し、臨時種畜検査受検後、各生産国体へ配置した。

### 昭和62年度購買農用種雄馬名簿（ばんえい馬）

配置番号 登録番号	馬名 (旧馬名)	品 種 色 色	生年 産地	血 純 { 父 母	体高cm 胸囲cm 管囲cm 体重kg	購 買 価 格 配 置 先
会62-1 S-766	アオヤマトップ (第一エタロン)	半血 (鞍) 枥栗	昭53 当別町	ベルジ マルゼンストロング ホ ー ス 半血 第一 清流	174 235 26.5 1.001	460万円 十勝農協連
会62-2 S-767	カシヨウ (香 勝)	ペ ル 青	昭53 白糠町	ペ ル ポ ル ー ル ベル系 第四 香 蘭	172 235 29.5 978	500万円 釧路農協連
会62-3 S-768	マツノバンサー (北の海)	半血 (鞍) 枥栗	昭53 幕別町	半血 タカラコマ 重半 健 宝	169 232 27.5 977	540万円 ホクレン農協連 北見支所
会62-4 S-769	タケシ (初 駒)	ペ ル 青	昭53 夕張市	ベル系 優 威 ベル 初 春	170 235 28.0 972	500万円 ホクレン農協連 苫小牧支所

# ばんえい競馬卯年

## に跳ねる

北海道市営競馬協議会

業務課長 大原 尚

昭和62年度の北海道内は、農業の大幅減反、農産物の自由化、漁業の二百海里問題、鉄冷えによる鉄鋼不況、炭鉱の閉山等々本道産業の根幹となる産業全体に暗雲棚引き、好転の兆しも見えぬ厳しい環境での競馬開催でありましたが、場外発売の施設設備の充実により、総売得金額で前年対比一一・六・八%と二桁の大幅に乘る飛躍的な発展で、七年ぶりの上昇を示した。

入場人員においても、前年対比九四・六%と減少はしたものの、場外を含めた総入場人員は前年対比一一七・一%と大巾な伸びを確保し、場外充実によりファシ層を拡大できたことは、喜ばしいことであつた。

### 六十二年度を顧みて

本年度は、かねてより検討を重ねてきた、全場外発売に向けての映像伝送による情報サービスを実施するとともに、発売日数を増加(四十九日)し、又旭川市内場外(旭川レーシングセンター)を新

帯広 五四億 六二六万円  
北見 六七億二千三二五万円  
岩見沢 五五億九千二六〇万円  
で

一日平均売得金の前年対比は

62年度 55年度対比  
旭川 九七・七% (六六・四%)  
帯広 一一三・〇% (六八・七%)  
北見 一四四・一% (八三・五%)  
岩見沢 一二・七% (六九・二%)  
平均 一一六・八% (七一・四%)

で、特に六十一年度に八〇%台に落ち込んだ北見が驚異的な伸びを見せた。北見は後半の四開催、旭川RCを使用して一日平均七、四三三万円(前年度旭川場外二、八〇一万円)と売得額を大きく伸ばしたのが主な要因で、最終開催競馬では、場外の総額が総売得金額の六四%と高率を示した。

反面旭川は、最終第六回開催に旭川RCのオープンに間に合つて大いに期待したが、前開催に比して本場売得金一日平均で二千二五二万円減額したのに対して、旭川RCの成績は、ホッカイドウ競馬との共催発売日が4日間あつたが、一日平均売得額二千六九万円に止まり、市内場外の効果を十分に発揮できぬままに終幕し、前年対比一日平均売得金は九七・七%と不意な成績で終つた。

場外発売の充実にもない、本場売得額が低下の傾向を示すのは歪めないことであるが、本年度は本場五三・一%(前年度六四・六%)、場外四六・九%の比率となつた。

なつた。

本場の一日平均売得金の前年対比は

62年度 55年度対比  
旭川 八二・九% 四〇・八%  
帯広 一〇四・一% 三七・九%  
北見 一〇一・五% 三四・一%  
岩見沢 九三・二% 三八・二%  
平均 九六・〇% 三七・九%

であり、旭川はRC開設により、予想された数字をはるかに越えるダウンとなつた。

一人平均購買額(除場外)及び前年対比は

旭川 四三、七五〇円 九七・三%  
帯広 三九、〇四八円 九九・八%  
北見 四八、二八五円 一一〇・八%  
岩見沢 四三、二八九円 一〇二・四%  
平均 四三、二〇〇円 一〇一・三%

であつたが、地方競馬の全国平均は、四万六千二〇〇円で前年対比二〇・三・六%であり、二年連続全国平均を下回つた。

地方競馬全体での一日平均売得金額は、前年対比一〇八・六%と昨年に引続き二年連続前年を上回る好成績であり、売得金額最高年次に比較し七七・二%まで復元を示しているが、ばんえい競馬においては、前年対比一一六・八%と急上昇しているものの、最高年次に比しては七一・四%に止まつた。

全国三十一競馬場のうち一一〇%台を確保した場が五場あり、伸率ベストワンは北見の一四四・二%、次いで大井の一六八・八%、帯広が一三三・〇%で第三位、

### (売得金額)

本年度の売得金総額は

二四八億四千一九万円

前年対比三五億七千七六一万円増で、一日平均前年対比は一一六・八%と二桁の伸びを示し、七年ぶりに上昇をみる事ができた。

各競馬場別の売得金額は  
旭川 七億一千九〇六万円

岩見沢の一・二・七％が第四位、札幌の一・〇・三％の順であった。

### (入場人員)

本場入場人員は依然として減少を続け、前年対比九四・六％の結果となったが、本年度は場外施設の充実と場外発売日数が昨年より四九日増加したため、総入場人員は前年対比一一七・一％と増員した。

本場入場者 三〇四、七二三名  
 場外入場者 三五九、〇八六名  
 合計 六六三、七九九名  
 四競馬場の本場入場人員及び一日平均前年対比は

旭川 一〇〇、〇四七名 八五・一％  
 帯広 七六、四七七名 一〇四・三％  
 北見 五六、八四三名 九一・五％  
 岩見沢 七一、三四六名 九〇・九％  
 で、帯広は増加を示したものの、旭川では最終開催に市内場外開設に伴い、大巾なダウンとなった。

男女別の本場入場人員とその比率は  
 男性 二五二、四五五名 八二・九％  
 女性 五二、二五八名 一七・一％  
 で、女性比率は昭和五五年初調査で一四・七％であったが、年々微増乍ら増加しており、特に「レディースデー」を設けている岩見沢においては二八・五％と高率を示し、若いカップルや家族ぐるみで楽しむ「ファミリーばんえい」化の傾向が目立った。

### (場外馬券発売)

本年度の場外発売については、念願の映像伝送による実況放映の実施、発売日数の増加及び旭川レーシングセンターの十月開設等施設の充実を図り、充分その成果を得ることができたものと思われる。本年度場外発売日数は

本場	場外発売場と発売日数				
	旭川	帯広	北見	岩見沢	釧路
旭川	6	34	27	29	合計
帯広	18	30	30	36	合計
北見	12	24	26	34	合計
岩見沢	18	20	26	30	合計
合計	48	30	80	96	合計
	47	73	90	90	合計
	417	90	115	89	合計

で、昨年と比較して旭川五日、北見六日、岩見沢三十日、釧路十日各増加したが、帯広は二日減となったものの、旭川本場の旭川RC使用六日を含めて、前年比四九日増の四一七日発売した。

各場毎の場外売得金と場外比率は  
 旭川 二七億四、二〇一万円 38・5％  
 帯広 二四億二、〇〇一万円 44・8％  
 北見 三九億七、八五九万円 59・2％  
 岩見沢 二五億 三、四六六万円 44・8％  
 合計 一一六億四、四〇八万円 46・9％  
 日数増と映像伝送の実施にともない、売得金も四一億二千万円増(前年比五五・八％増)と大巾に伸び、特に北見の十一月、十二月開催においては、旭川レーシ

ングセンターの開設と相俟って、場外総額は前年比一六億九千万円増、率にして七四％増と驚異的な伸びを示した。総売得金額に対する場外比率も四六・九％(前年度三五・四％)を占め、今後各場共に場外のウエイトは益々増加の傾向となるであろう。

場外発売所毎の売得金額は

旭川場外 三九億八千七〇七万円  
 (競馬場 二〇億四千二八三万円)  
 (RS 一九億四千四二四万円)  
 帯広場外 二五億二、五二七万円  
 北見場外 二五億八千九四九万円  
 岩見沢場外 一六億 八五七万円  
 釧路場外 九億三千三六七万円  
 で、一日平均売得金額と前年対比は  
 旭川場外 五千一一一万円 172・0％  
 (競馬場 四千二五五万円 143・2％)  
 (RC 六千四八〇万円) ————  
 帯広場外 三千一五六万円 118・4％  
 北見場外 二千六九七万円 122・0％  
 岩見沢場外 一千七八七万円 204・7％  
 釧路場外 一千二七九万円 123・3％  
 平均 二千七九二万円 136・6％

で、場外発売は映像伝送の実施等により着実な伸びを示した。

旭川RC発売の内訳は、旭川開催でのRC使用は六日間実施され、一日平均売得額は二千六九万円であったが、北見開催ではRCを二四日間使用し、一日平均売得額は七千四三三万円であった。

特にホッカイドウ競馬が終了して、単独開催となった十一月後半の北見におい

ては、一日の売得額が一億円を突破した日が三日あり、十二月八日の最終日には一億三千三六六万の売得額であった。

一人平均購買額及び前年対比は  
 旭川場外 三七、八八三元 94・3％  
 (競馬場 四〇、二八四円 100・3％)  
 (RC 三五、六五一円) ————  
 帯広場外 三一、五五六円 105・5％  
 北見場外 四〇、五三〇円 113・5％  
 岩見沢場外 三六、一九二元 115・5％  
 釧路場外 一四、二五九円 98・2％  
 平均 三二、四二七円 105・4％  
 であり、映像伝送実施により、滞留型場外を想定していたが、一人平均購買額の前年比は五・四％増に止まり、寧ろ一日平均の売得額、入場人員の大巾な増額増員は映像伝送が新規ファンの開拓及び潜在ファンの掘り起こしに、功を奏したのと思慮される。

旭川RCでの市営競馬単独発売日は二一日あり、一日平均売得金は七、四八二万円であり、一人平均購買額は三九、六六七円であった。

釧路については、発売日数七三日のうち、ホッカイドウ競馬との同日発売日が五十日あったが、市営単独発売日の一日平均売得金は一、五六三万円、一人平均購買額は二二、八四二円であった。

入場人員は  
 旭川場外 一〇五、二四六名  
 (競馬場 五〇、七二一名 一、三四九名)

(RC) 一、〇五六名  
五四、五三五名

帯広場外 八〇、〇三五名

北見場外 六三、八九一名

岩見沢場外 四四、四四六名

釧路場外 六五、四七八名

合計 三五九、〇八六名

で場外入場者は、十一万四千五七三名(前年比一四六・九%)増加し、一日平均でも一九七名(前年比一二九・七%)増と盛況であった。

中央競馬 一〇四日

発売額 九六億八千九二八万円  
一日平均 九千三二六万円

前年対比 一〇・五%

発売額 一九億七千〇三三万円  
一日平均 二千〇五二万円

市営競馬 七三日

発売額 九億三千四一〇万円  
一日平均 一千二七九万円

旭川レーシングセンターの成績

ホッカイドウ競馬 十六日  
発売額 四億六千三五六万円

一日平均 二千八九七万円  
(単独開催 七日)

市営競馬 三十日  
発売額 一九億四千四三六万円

一日平均 六千四八一万円  
(単独開催 二十一日)

一日平均 七千四八二万円

### (競馬番組)

地方競馬の開催成績は、全国的に復元傾向にあるが、ばんえい競走においては、一日平均発売額において六年連続低下という厳しい状況での本年度の予算編成となったが、報價費総額において、前年比一千万円増額し二億三千万円計上した。

出走延頭数 一二、八〇五頭  
競争回数 一、三六五競走

一競走平均 九・四頭  
競馬番組の編成基準については変更はなかったが、競走内容見直しにともない、重賞競走一レース減、特別競走十六レース減するとともに、北見競馬場においては本年も平場競走の賞金率を一八〇方式で実施した。

重賞競走は本年二八競走実施し、ばんえい三大重賞競走は

七〇〇万円 農林水産大臣賞典  
六五〇万円 岩見沢記念  
六〇〇万円 旭王冠賞

で、旭王冠賞は五十万円減額した外、その他の重賞についても据置き又は若干減額して実施した。

四〇〇万円 旭シルバーク、帯広記念

三〇〇万円 三競走

二五〇万円 六競走

二〇〇万円 十競走

一五〇万円 四競走

出走申込頭数 一、二五一頭  
出走実頭数 六四〇頭

新馬登録頭数 七〇七頭  
で前年比、申込頭数九六頭減、実頭数二〇頭増、新馬八三頭減であった。

年令別出走実頭数は  
三才 二〇五頭 四才 一一八頭  
五才 八二頭 六才以上 二三五頭

で番組編成上、バランスの良い年令構成であった。

年間取得賞金額の最高馬は、一八戦二勝、旭王冠賞、帯広記念を制覇した七才馬、

タカラフジ 一、五一四万円

が、農水大臣賞典馬十才のハクマサヒカりに二百万の差をつけて古馬No.1に輝き、4才時に続いて二度目のタイトルを獲得した。

本年度も十才の年令制限で、前記ハクマサヒカリの外、59年大臣賞典馬で通算七、三二八万円で歴代取得賞金5位のハイスピードが引退することになり、明春から種雄馬として活躍することになった。

五才馬は、十二戦六勝、地全協賞、ポブラ賞と重賞二勝の

ホマレカップ 九五九万円  
四才馬は、二三戦一〇勝、牝馬ながらばんえい菊花賞を制覇した

ダイコークイン 六七七万円

三才馬は、一三戦六勝、つっじ賞、イレネー記念、ホクレン賞と重賞三勝の

キンシャドー 七六九万円

一頭平均取得賞金額は  
三才 一、三三三、八二四円

四才以上 一、七六五、一九五円

金馬平均 一、六三三、四二八円

四才以上の出走実頭数が増加したため、前年対比三才二万円増であったが、四才以上一二万円減、全馬平均八万円減の成績であった。

牝馬優遇策を実施して五年目を迎えた本年、三才牝馬は五九頭出走し、比率二八・八%と牝馬確保率の目標二五%を突破し、頭数、率ともに記録を更新した。

三才馬の性別一頭平均取得賞金額は  
牡馬 一、二七〇、八六三円

牝馬 一、五五九、一一九円

で前年対比では、牡馬四千万円増、牝馬一萬三千円減の成績であった。

馬格については、年々大型化の傾向を示してきたが、ここ数年急速な変化はなく、ばんえい馬として固定化の方向に向っているようだ。

本年最終出走時の馬体重の一頭平均と前年対比は

三才 八七三kg(一〇kg減)  
四才以上 九五九kg(六kg減)

全馬平均 九三二kg (七kg減)

で最高と最低は、三才一、〇二四kg、七四三kg、四才以上一、八一kg、八〇五kgであり、一トン以上の馬は、三才一頭、四才以上八〇頭であった。

又、八才馬ミホテンザンが五月一日一、二〇九kgで出走(六着)し、最高馬体重出走馬の記録を更新した。

### (騎手成績)

調教師 五〇名(新規一名)

騎手 二八名(新規四名)

調教師は前年より一名増、騎手は前年同数の総数七八名であった。

調教師の成績は

取得賞金 前原芳郎 四、〇九六万円

勝利度数 林 正男 四八勝

勝率 大野英夫 一八・七八%

各部門とも第一位は初めてである。

騎手の成績は

取得賞金 金山明彦 八、七一〇万円

勝利度数 金山明彦 一〇九勝

勝率 金山明彦 一四・五五%

本年は、西康、藤本騎手等の台頭で、各部門とも前年より成績は下がったが、結果的には本年も金山騎手の一人舞台となり、通算勝利度数も一、六七九勝と記録を更新中である。

新人騎手は本年四人デビューし、前原陽介は三七勝、門脇税、結城馨ともに三三勝して減量の△印がとれたが、森芳浩は騎乗回数に恵まれず僅か四勝に止まったが、明年度の奮起を期待するところであ

ある。

調騎会の勇退退職制度に基づき、坂下弥作、田上正、南坂俊雄の三調教師が本年限りで勇退されたが、永年に亘りばんえい競馬発展のためにご尽力されたことを感謝するとともに、今後のご多幸を祈る次第であります。

### (馬産関係)

道内の農用馬飼養頭数は、昭和五十五年まで雪崩現象的に激減してきたが、昭和五十七年度には、一万五千頭台にまで回復したものの、最近再び減少傾向にあり、本年度は前年対比六〇〇頭減の一三、九〇〇頭であった。

種付頭数も前年対比二二六頭減の七、一〇九頭、生産頭数も前年対比四五六頭減の四、五四一頭とともに減少した。

しかし、農用馬主要生産地である十勝、釧路、北見三地区の二才馬夏せりでの一頭平均市場価格は、昭和五十八年度五四万円を底として漸増を示してきたが、本年度は前年比四四万円増、率にして六一・三%増の一六万七千円と大中の高騰を示し、見通しは明るくなってきた。

競走経歴のある種雄馬の産駒は年々増加の傾向にあるが、本年度の三才能力検査合格馬二〇六頭のうち、競走経歴種雄馬の産駒が一四七頭(七二・四%)に達し、往年の名馬の産駒の活躍が目立つた。

本年度も日本馬事協会は、アオヤマトツバ他三頭の現役馬を、一頭平均五〇〇

万円で種雄馬として購買し、道内生産団体に配置した。

### 昭和六十三年に向って

昭和六十二年の公営競技の開催成績は、各競技とも前年を上回る好成績で、五競技トータルで五兆七千二八五億円と昨年の記録を塗り変えて、史上最高の売上となった。

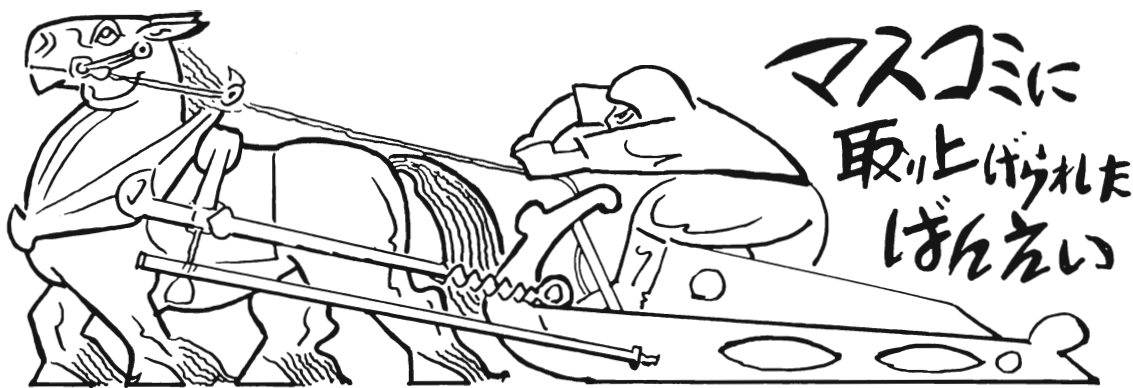
五競技一日平均前年対比は

地方競馬一〇八・六%、中央競馬一〇九・五%、競輪一〇五・六%、競艇一〇五・五%、オートレース一〇四・三%の成績で、ばんえい競馬も一一六・八%で七年振りに上昇し、全国的な復元傾向に一年後れで仲間入することができた。

北海道内の経済環境は大きな変動もなく、依然として厳しいものがありますが、競馬事業の振興策として、岩見沢市内場の新設が予定されており、又帯広競馬場場の拡充により、ホツカイドウ競馬と共催発売を図るとともに、場外発売日数を前年比七八日増の四九五日を計画し、帯広と岩見沢において「国際花と緑博」の協賛特別競馬を各一回開催する予定であります。

ここ数年米経営の合理化により開催経費の節減を図ってきたが、執行体制の見直しにより執務員、従事員定数の再検討、報償費の見直し、一般管理費についても全体的に見直し削減に努め、六十三年度の予算編成に当たっているところであります。昭和六十三年度の開催日程は、例年よ

り早い、ばんえい競馬では初めての四月十七日岩見沢競馬場で開幕、二二回、一三二日を開催し、十二月七日帯広競馬場で終了予定ですが、競馬の公正を第一とし、地域に密着したレジャーである特色を十分に生かし、ファンサービスの充実、施設の整備、レース面の創意工夫をこらし、魅力あるレースの提供に努めるとともに、懸案の一部事務組合の設立、新場外発売所等の検討を精力的に推進する予定でありますので、何卒よろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# マスクミに 取上げられま げんない

1、一月二十四日 NHK・TV

PM一九・三〇

レギュラー番組「ハローワールド」でアラブ馬の原産地で「ダンス馬が誕生した」と報ずる。以前には駱駝に仕込んだものというが、ここでは七五頭の馬を調教したという。飼育場の調教師ゴマ・アマンシヨレル氏によると、仕込みには三年もかかり、今は三頭の馬だけが仕上がったという。馬のダンスは観光客を喜ばせ、今では結婚式の祝いとして注文も多いという。

この地方には子供が四才になると、裸馬に乗って割札の式を受ける習慣があるという。踊りを習得した三頭のアラブ馬は割札を終った三人の子供と、コブラの踊りに使う笛のような曲に合せて、前肢を上げてリズム感のあるダンスを披露する。古来アラブ馬は馬改良の元祖となったほどの名駿、このダンス、一寸気品がある。

2、二月五日 HBC・TV

AM九・〇〇

兼高かをるの「連続放送番組」はこの日、美しい森と湖の点在する雪の北方ノルウェーを紹介する。土産馬より少し大きめのノルウェー農耕馬が引く馬車がピンブア村の雪原を疾駆する。

この国の人口は四一三万人で秋から春にかけての気候は平均零下一〇度位という。かつて一九八四年近くのサラエボで冬期オリンピックが開催され九個の金メダルを獲得したという。冬期スポーツの

国を、良く肥えたノルウェー馬が首に下げた鈴を鳴らしながら案内してくれる。

3、二月二〇日 NHK・TV

PM六・五〇

シベリヤの厳寒期を思わせる北海道石狩の雪原を縦横に駆ける馬車を駆使して制作に打込む韓国映画制作隊を紹介する。スタッフ十八人と監督のキムキ氏はいづれも韓国人、広大な北海道の雪原を背景に、道産重ばん馬が曳く馬車を駆使して、その美しい自然の中に芽生える真の愛をうたい上げる文芸作品という。

4、三月六日 NHK・TV

AM七・四〇

帯広競馬場敷地内にあるビーフステーキ店は建物も洒落た洋風で有名だが、こゝで三月五日さくら肉コンクールが開かれた。審査は勿論味の良さが中心だが、その他風味、見た目の良さと仕上げの早さに重点がおかれ、入賞は六位まで。優勝したのは朝鮮料理にヒントを得たという帯広の勝木剛さん、第二位やなぎ焼の勝部さん、三位は十勝焼の折茂さんと決った。当店専門家の桜井コック長さんはさくら肉は栄養も良く健康食だといひ、馬肉販売業を営む九州の幸介さんは中でも「まさし」が一番と推奨する。

本道一の重ばんば産地の十勝で、九州の「まさし」石狩の「石狩なべ」のように普及するかどうか。

5、三月六日 NHK・TV

AM七・三〇

レギュラー番組「ニュースワイド」で

昨年を以て引退して種牡馬になった「ばんえい初の一億円馬キントロー号」の馬像制作に打込む北見の小川研介を紹介する。美々に仕上がった木彫のキントロー号は札幌市の馬主さんに寄贈された。

6、三月十二日 NHK・TV

PM七・三〇

木曜日の「北海道七時半」で好評の「北紀行」を集録し放送した。この中には北見競馬場でばん馬の雪中調教にはげむ調教師片平俊悦さんが第一番に出てくる。

農耕や運搬の仕事が機械化した現在、馬の仕事はほとんど無くなり、現在ばんえいと栄養源として生産されている。重ばん馬生産意欲は力強い愛馬家の利害を超えた愛馬精神から生れてくるのである。今や力と筋肉の充実を目標として世界一の大馬を生むようになった。その調教は激しく正に男性的スポーツとして、益々改良進歩の気風がみなぎり、衰えを見せない。

7、三月十六日 NHK・TV

AM七・四五

北見置戸で生れた「人間ばん馬」は今や全道的な広がりを見せている。これは人間のばんえい競走である。この日NHKテレビは留萌で催された「やん衆ばん馬」を紹介する。

砂袋を積んだ磯舟の重量は九〇〇キロ、一チームは九人の若者で八チームが出場する。別に女性チームによるレースもある。

留萌のどんすこい祭りの余興として、

「やん衆ばん馬」は今や人気絶頂だ。競技場の花田番屋跡には二万人の観衆が詰めかけた。

開催委員長の二の宮清信さんは「これは留萌の冬祭りとして定着するでしょう」と満足気である。

8、三月二十七日 NHK・TV

PM八・四五

レギュラー番組北紀行で留萌どんすこい祭りの「やん衆ばん馬」は賛助出演の森田公一作演歌と、地方の娘さん達の踊りを入れ再放送された。留萌を起点とする国鉄羽幌線は三月二十九日廃線となるが「やん衆ばん馬」は市民の祭典として定着するだろうと町長は言う。

9、三月三十日 NHK・TV

PM六・三〇

神に仕える神馬が出没すると伝えられる道南の駒が岳。その山麓で農業を営む吉田国雄さんは大の馬好き。馬と共に育ち、百姓が機械化されてから十二年にもなるが馬が放せない。

能力試験にはぜひ合格せねばと、百キロのそりを二百メートル二分で走らせる調教に余念がない。出場馬の三分の一しか合格できないという厳しいばんえいテストを目標に、風雨にめげず調教に打込んでいる。

10、四月二日 NHK・TV

PM七・三〇

ラッコの出没する根室霧多布岬に二年前移住してきた片岡義明さんは、この地に懂がれて住みつき民宿を営んでいる。

しかしここに来てからラッコは四回しか発見できなかったと言う。落石岬の向い側にはユルリ島が浮んでいる。ここに先人達が放してきた馬が、今野性化して棲息している。ユルリとは鶴の住む島の意といわれる。

野生馬は今十六頭いるが、そのうち二頭は可愛い仔馬である。

娘さん二人を連れてラッコさがしに行くと、浜辺は二〇頭ばかりのアザラシが泳いでいるばかり。片岡さんは「ラッコ逢いたや春の海」と心境を詠するが、ユルリ島は野生馬と海鳥の楽園となっている。しかしその後ラッコは戻ってきたという話を聞く。

11、四月七日 NHK・TV

PM六・五〇

今年開幕の旭川競馬場には今四〇〇頭の馬が入厩して能力試験に待期し、この難関を突破して十九日からの本番に備える。

今年旭川で開幕し、北見、岩見沢、帯広と転戦し、十二月八日北見で終るまで全二十二回、百三十二日間の長期開催である。

12、四月十五日 NHK・TV

AM七・四〇

これも旭川での調教風景。馬の訓練にはけむ前原調教師は「一着とった時の気持は馬主、調教師、騎手、厩務員皆同じである。その嬉しさは何物にもたとえようがない。頑張ります」とばんえいに打ち込む心情を語る。NHK朝のニュースの

中で……。

13、四月十九日 NHK・TV

AM七・四〇

春先きのテレビ・ラジオは冬から春にかけてばんえい調教の場面がニュースの中に入る。この日もNHKテレビ朝のニュースは百三十二日間のばんえいは旭川から開幕と告げてくれる。

馬の体重ほどの鉄塊を重い鉄ぞりに乗せて二〇メートルの速度を競う豪快なレース。今年は釧路も入れて五ヶ所場で外馬券を発売し成績の向上をはかると言う。

14、四月二十二日 NHK・TV

AM七・二五

街の真中に馬小屋がある。戦後別海町に入村したころは雑草の中だった。その後開墾が進み今は街の真中でばん馬十頭を飼育している馬産家だ。四月になると次々と仔馬が生まれて、やがて桜の季節を迎えると、馬小屋の中には一足先に春が来たようだ。

15、四月二十二日 NHK・TV

AM七・四五

釧路市郊外の農家福西範さんと母親のせつさんは大の馬好きで、馬生産者としては三代目にあたる。かつての日本釧路種は今、農用とばんえい用として重要な地位を占めている。

今日はお産の日だが一寸難産気味で家族三人力を合せて生れてくる仔馬を引っばってお産を助ける。生れた仔馬は幸い元気に立ち上る。

桜の季節には元気に育った仔馬をつれた母馬に馬車を引かせてせつさんは野菜を売りに行く。

16、四月三〇日 NHK・TV

AM七・四五

ニュースワイドは宮崎県郡井岬馬の純血保存を話題にする。

日本和種として現存する岬馬は有名だが放置すると洋種と雑種となり天然記念物としての岬馬は絶滅する。宮崎大学の加世田教授グループは県に現存する馬約百頭中七頭の外国種を去勢して混血を防ぎ岬馬の系統図を作って純血保存の計画を掲ぐるみで決める。

17、六月二日 NHK・TV

PM五・三〇

人気番組「なんでもワンダーランド」はこの日、中国騎馬民族の結婚シーンを紹介する。

画面はまず若い男女の騎馬群が猛然と疾走するシーンから始まる。既に婚約が決っている姑娘(クニーヤン)は青年の帽子を難なく落して喝采を浴びる。

式に姑娘はピンクの布をかぶつて出るが式場では古老から馬を大切にせよと宣告され、これを誓うと布を取られて顔を現わす。集まった友人親族達は馬乳酒と自慢の料理で酔い且つ歌う。

宴も進んで新婚さんは乗馬して旅に出る。彼等遊牧民は皆家族のように親しみ青草を求めて大移動して行く。彼等に慕はない。





「花形」とはいえ…

18、六月七日 HBC・TV

AM九・〇〇

お馴染みの兼高かをる「世界の旅」ハイライト。

この日の「内蒙古」風景は見渡す限りの大草原をバックに放牧馬が散在している。そこにはお馴染みの包（パオ）があり、それは四人が一時間で組立て、約二十分で解体する簡便極まる家屋である。中には馬の頭が飾られ、馬頭琴を奏で、外では蒙古特意の馬術が披露される。

全力で走る五頭の蒙古馬には、それぞれ五人の壮者が倒立し、忽ちのうちに横乗り、後向き、開脚乗りと披露する。これみな素人の馬術だからおどろく。

19、六月二十八日 毎日新聞コラム

米国フロリダ州で行なわれた自動車販売促進キャンペーンの余興で、約九メートルの高台から馬がプールに飛び込むのを見せる。人間でさえ二の足を踏むダイビングを見事に果したのは驃馬のデュー君である。

20、六月二十九日 毎日新聞コラム  
「草競馬の念願果した町長さん」農耕

馬が農作業の主役だったころ、全道では五十〜六十カ所で草競馬が行なわれ、道営競馬では速歩競走をやっており、始め騎乗速歩だったが後にはけいが競走だけになった。



士幌町の飯島和吉さん（七〇）は農業

と牧草生産で成功を収め、士幌町長に選ばれたが一期で引退し、昔から所有していた私設馬場を三年がかりで拡張、ついに一周九百米のコースを作り上げた。このほど飯島さんの呼びかけで各地から、二〇頭の速歩馬が集まり、けいが馬と騎乗の速歩競走十五レースが行なわれた。

飯島さんは六回も出場し、「ようやく実現

して嬉しい」と大喜び。飯島さんは昔道営競馬の騎手だった。

町の人達は「草競馬がしたくて町長を一期で退いたのでは」と噂するほど自己共に認める馬好きである。

21、七月五日 HBC・TV

AM九・〇〇

これも兼高かをるの時間。

この日も内蒙古の寺院と蒙古騎馬民族の馬術を紹介する。

内蒙古にある修学の大寺院、五当廟は秦の時代に建立された大寺院だが、修学僧のため棟がいくつにも別れている。包頭市の東方約五〇キロにあり、今回は四ヶ国の文学者が招かれて読経堂に集まり蒙古仏教の研修が行なわれている。かつて十九世紀まで毎時千二百人ほどの僧がいたが、現在は政治体制も変り三七人しかない。しかも老僧が多いという。

一方ウラントケの人民公社では、蒙古伝統の馬術や角力が行なわれ、放牧に明け暮れる蒙古民族の祭典を見せる。

22、七月二十五日 HBC・TV

PM九・〇〇

北海道は南から拓けた。松前から函館へ、五稜郭の戦いもあった。北海道の馬産も函館近郊に開拓使が設けた七重官園が洋種馬による改良の発祥地になったといえる。そこにはかの有名な米国人エドウィン・ダンやドイツ人のニゲルトネルなどの外国人指導者がブラオによる一人馬耕、中耕除草、脱穀など農機具操作を指導し、米トロや仏国ベルの移入もした。

HBCのレギュラー番組のひとつに「日本を知りたい」があり、この日は函館を描く。

その頃外国から移入した野菜に花野菜（カリフラワー）、胡葱万（キャベツ）、胡葱万（人参）、オランダセリなどがあつた。

現在も尚、道南には駒ヶ岳山麓のシャロレー牛牧場があり、五稜郭にはドイツ人カール・レーモンのハム工場、大野には土さん馬の繁殖を樂しむ木村さんがいる。森、砂原にはばんえい馬の生産に打込んでいる人もいる。

23、八月五日 HBC・TV

PM一〇・〇〇

この日も又蒙古大草原からウランベートル、アルハイイにかけて放牧されている蒙古馬を見せ牧置の働きを紹介する。広大な蒙古草原に馬、牛、羊、ヤクの群が短かい草をはんでいる。

標高二千米の草原をゆるやかに流れるチョロートゴル河は河幅約百米、雪が丘に積り、樹木は豊かで人口五千人、家畜は約九万頭。

外蒙はソヴェトに近く、パオのことをゲルと言っている。大草原では、ヤクと牛の争闘があり、この燃料は薪で豊富な大森林があり、灰色の狼も棲息する。

狼による家畜の損害が大きく、報償費目あてに四人の牧童が出かけて行き、グルミ爺さんは狼の声を真似て狼を呼びよせると、それを見て見せる。

ソ連に近い外蒙は又人間の風習も変り、

風光も変ってくる。町には大きなイトウが棲むというので釣りにと行くが、これはなかなかむずかしい。しかし幾日もの頑張りでついに仕とめる。珍らしい外蒙からソ連国境へかけての風物詩。バカルタイ(さよなら)。

24、八月二十八日 NHK・TV

PM六・一〇

この日も又根室の沖に浮かぶユルリ島の野生馬と珍鳥エレピリカを見せる。ユルリ島の丘は平坦で周囲は切り立った断崖になっている。今年生れた仔馬も入れて放牧馬は約二〇頭。一列になって草原を走る。細く切りこんだ丘を流れる水は清澄で思わず「おいしい」とスタッフは感嘆する。

嘴の赤い珍鳥エレピリカはアリューシヤン列島に棲みつき、ユルリ島で見るのは珍らしいと地元の鳥類研究者高田勝さんは説明する。

霧の島ユルリ島はやはりばん馬の島だという。

25、九月四日 NHK・TV

PM六・〇〇

熊本市の歯医者さん花屋氏は大の馬好き。今年の秋祭りを迎えて、愛馬家十五人から馬を集め、水道町合同の踊りを練習する。重種、中間種、乗馬型と馬は色々だが、調子を合せての足踊り。特訓を受けた馬は人と一語にメインストリートを三味線太鼓に合せて調子よく歩く。水道町の秋祭りにはこの馬踊りが名物。これが終ると野の花サルスベリも咲きはじ

め、本格的な秋がやって来る。

26、九月八日 NHK・TV

AM六・五〇

幕別町の土井博司さん(六二)は水墨馬画家として知られている。水墨の濃淡を生かした大胆な手法は躍動感溢れる馬を描き出す。

少年時代の土井さんは馬の中で育った。これは九月八日の夜六時十分にも再放送されたが、土井さんは先年足が不自由となり、好きな馬を描くうち、今はそれが本業のようになった。大風風に描かれた馬の大集団がNHKの選曲に乗って画面に躍動する。正に壮観。

27、十月十四日 HTV・TV

PM一〇・〇〇

レギュラー番組夜のニュースステーションで釧路湿原で牧場を営む瀬川鶴雄さん(七八)親子を紹介する。

土産馬に鞍を置いて二人は、雪をかき分け放牧場に出かける。そこには、土産馬八頭を含む十頭の馬が放牧されている。ポウポウと瀬川さんが声をかけると、丘のかげから走って来る。木柵に鉄条網を張りめぐらした中で、馬たちは暮している。年中放牧の冬は馬たちにも厳しく、息子さんが牛のエサをごまかして持ってきてやると、皆集まってむさぼり喰う。臀部にはつきり烙印の見えるのは今年生れた仔だ。「馬は可愛い。するさがない」と瀬川さんは馬を撫でながら話す。

このあと、湿原の鶴、鴨などを保護する新庄学芸員が詩人の立松和平さんを案内する場面がつづく。

28、十月十八日 HBC・TV

PM二・〇〇

音楽紀行スペシャルで、ゲーテの詩「童は見たり野ばらの花」は世界最大のヒット曲だが、その作曲はいくつもあり、日本ではウエルナー作曲のものが普及され、誰一人知らぬ者はない。楽聖といわれるベートーベンはどうだったのか。作曲はしたが、一般に知られなかった不思議を追う。

我々はオーストリア、ドイツ、デンマークとベートーベンの足跡を辿ってその曲を追う中で、欧州の美しい緑野や、白壁の農家が点在する風景の中で、軽ばん馬や重ばん馬などの農耕馬が見え、とけこんでその美しさを更に増しているのを見逃すことはできない。歌よりも馬に魅かれてしまうのだ。

29、十月二十日 NHK教育TV

PM八・四〇

フランス原産のアングロノルマン種にはコブ型とセル型とあり、コブ型はベルシュロンに次ぐ重ばん馬として日本にも多く輸入され、日本の馬産に大いに貢献した。戦後は同じフランス原産の重種ブルトンに変わったが、ノルマンは戦列ばん馬として歩様軽快を見込まれたものであった。重挽のばん曳向きは強大な力と体格を持つベルとアルが見込まれたのは当然である。

ノルマンは仏国ノルマンディ地方が原産地で今なお現存する遊牧民が馬群と共に暮している。そこには珍らしい遊牧民生活の中で男根と女蔭をまつる性祭が残っているという。

30、十月二十一日 NHK・TV

PM六・二五

レギュラー番組「いま6」の中で、盛岡市の二階建て観光馬車を紹介する。

朝五時から宮内さんは働きに出かける。昨日肢を捻挫した馬を休ませて、代りの馬が出かける。宮内さんは以前造材山で四〇年間働いたという。今の馬は最後の一頭だったという。今は蹄鉄屋もいなくなり、自分で蹄鉄を作り削蹄、装鉄もやってのけるといふ。

31、十月二十二日 NHK・TV

PM一〇・〇〇

大型レポート番組「大黄河」で黄河を泳ぎ渡る蒙古馬のけなげな泳ぎっぷりを見せる。

黄河を渡るのに用いるヤンピーパーズはゴムボートのように見えるが、羊皮を縫い合せて空気ですくすく浮かせたものを数個組み合わせた上に板と布を敷いたものである。

これには六人ほどの人が乗り、約二百米ほどの河幅を渡るのだが、馬も三、四頭いかだと共に泳ぎ渡る。黄河の河幅は概ね二百米から五百米あるが、馬も羊も共に乗るときはその数に合せて羊皮袋の数を決める。黄河を渡ると別の皮袋から服や鞍などを出し、蒙古馬に装着するとアグネ街の方向へ風のように走り去る。

この日はヤンピーパーズに六人の人と

二頭の馬と荷物が運ばれた。

画面は黄河の大景観に移り、一番河幅の狭い竜羊峡は兩岸の高さが数百米もある絶壁で切り立っている。黄土高原目ざして泳ぎ渡る一人用のニュービータイ牛皮袋、普山峡谷、竜王廟や十キロ西方に轟音をとどろかす壺口大瀑、など幾多の歴史を秘める中国の大黄河を紹介する豪華番組。

32、十月二十七日 NHK・TV

PM五・三〇

人気番組「なんでもワンダーランド」でこの日ヒマラヤ連山に近いチベットの動物達を見せる。

この野性驢馬は特に頭が大きく、腹が白く大型である。驢馬は働き者としてほとんど中国全土で重宝がられている。そのほか、チベットカセル、チルー、チベット抓、マモット（リスの一種）、暗かないナキウサギ、インド雁などいずれも大型である。

33、十一月四日 NHK・TV

AM七・〇〇

旭川競馬場で体重千二百キロもある種牡馬の橈曳き運動を見せ、今年のばんえいを振り返る。

能力テストを目標に調教された馬は八百頭だったが、合格したのは二百頭だった。冬期の調教期を迎えて、ばんえい馬の耐久力の調教に専念するのだと、ばんえい競馬最終期に入って既舎の空気はもう張りつめている。

34、十一月十日 北海道新聞夕刊

道新はこの日の夕刊に珍らしいフランスのばんえいを紹介する。

北海道のばんえい競馬が北仏一帯で競馬ファンの人気になっている。そして三年前から仏国原産の重種馬の保護育成奨励の一環としてばんえいが始まった。

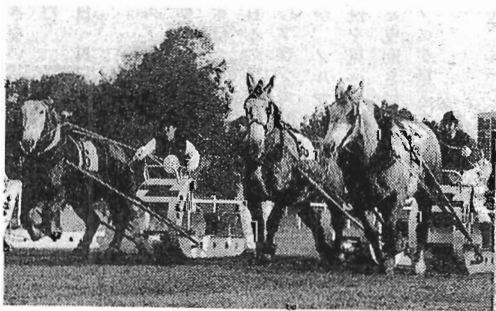
競馬場はトロットレース場八百メートルだが、本道のばんえいに比べると規模も小さく、主役であるトロツテングレースの合間を縫って行なわれる余興レースである。しかし本道にも多い体重一トンのベルシュロン種の原産地だけに迫力とスピードは本道ばんえいを凌ぐ勢いだ。

十月下旬、北海道ばんえいと交流を深めるため「日本杯レース」が設けられたのを機会にパリ東方百五〇キロにあるフランス競馬場で仏版ばんえいが開かれた。このばんえいは仏トレトラ（荷役馬）協会や国立種馬改良所などが、仏農林省の補助を受けて共催している。毎年四月から十月の毎週日曜に、北仏のシャンパンの産地、ランスやナンシーなどの八競馬場を巡回し、五〇レースが行なわれる。

ランスのレースは今シーズン最後の決戦場。各地で勝ち抜いた十五頭が「金の手綱杯」「日本杯」の二レースに挑戦した。距離は二百米で高さも北海道と同じで二つの盛り土部分がある。橈は本道より軽い五百キロ前後と五五〇キロ、芝馬場である。

こうした条件の違いと出場馬はいづれもベルシュロンとアルデンヌの純血で、

# ばんえい競馬 仏で人気



スピードでは本道以上の迫力を見せるフランスのばんえい

ベルシュロンの故郷  
「保護育成に最適」

来年は本道関係者招待

本道からそっくり輸入

熱狂「それ行け！」



「日本杯」レースで第1回の優勝を飾ったブランさん（右）とクノツッドピック号



「金の手綱杯」獲得の女性騎手ペノアさんとサバナ号

スピードがあり迫力満点だ。

観客席からも盛んに「ヴァジ（それ行け）ノ」と声援が上り、馬券もないのに大変な熱狂ぶり。

「金の手綱杯」は二十二才のマドモアゼル・ペノアさんが騎手を務めたサバヌ号が優勝。「日本杯」はブランさんが馬主兼騎手で出たクノッシドピック号が獲得した。いづれもベルシユロン種。

ペノアさんはばんえいに二人いる女性騎手の一人で競技歴は二年。「トロットよりダイナミックだし、何よりも人馬の呼吸が一体にならなければいけない素晴らしい競技です」とばんえいの魅力を語る。

フランスのばんえい競馬は、前記トトラ協会のサリセテイ専務理事らが五年前、岩見沢、北見でばんえいを見たのがきっかけで「重量馬の保護育成とファンに関心を持ってもらうには最適」とそっくり導入した。

サリセテイ理事は「こちらは保護育成が目的なので、馬そりも軽くし、軽いムチを使っている。その分北海道よりスピードがあって面白いと思います。ファンが増えてきたので来年は馬券も発売し北海道のような人気レースにしたい。来年の日本杯レースには岩見沢、北見から、ばんえい関係者を招き交流を深めたい。」と抱負を語っている。

35、十一月十二日 NHK・TV

AM 八・〇〇

十月下旬、十勝馬を中心に北見、旭川、

函館などから重種馬百三十頭を集め、帯広市で共進会が開催された。いづれも見事な堂々たる重種馬で、グランドチャンピオンには十勝生産馬が選ばれた。これは同夜六時半と翌十三日朝八時のニュースにも再放送され、衰えぬ本道馬産の意気込みを見せた。

36、63、一月二日 HBC・TV

PM 五・〇九

HBCニュースコープは、今年のばんえい競馬を開幕した旭川の雪中調教を見せる。

三百キロを曳く明け三才馬の練習風景は相変わらず圧巻だ。この季節には各局とも毎年雪中のばんえい調教風景を取材してくれる。

37、63、一月二日 HBC・TV

PM 五・〇〇

釧路湿原の春夏秋冬を描く。詩人立松和平の「いと感動の旅スペシャル」はこの日池田レポーターと共に湿原を歩く。

先に、27で紹介した湿原の瀬川牧場が再び話題となる。年中放牧の土さん馬達は大自然の中で生れ育つが、舍飼の動物より身体は綺麗である。高松さんと池田さんは馬に乗せてもらうが、まるでロデオのように振り落とされてしまう。年中放牧馬は風のない林の中で自然分娩をする。

春になると、湿原の中の蓬古武沼や塘路湖を舟で行く。そこには気嵐（湯気の雲）が上っている。そして人工ふ化したわかさが大漁となる。綱には大鯉も入

っているが小さいのは放してやる。湿原の向うには鶴の舞が見える。

38、63、一月七日 NHK・TV

PM 七・四〇

これもNHKレギュラー番組「北海道膝くり毛」で西海岸の泊村を紹介する。

本道初の原子力発電所建設地として有名になった村だが、それとは別に海岸町泊村の今昔を見せる佳作となっている。ここに五頭の土産馬がいるが、これは往時、馬車（トロッコ）鉄道で山から木石を運んだ馬の後裔だという。

39、63、一月七日 UHB・TV

PM 八・〇〇

ばんえいでもお馴染みのUHBのムツゴロー先生もの。この日は夜八時から九時四十八分まで約二時間の大作。まず画面は夏八月の中標津草競馬大会から始まる。出場馬八十頭、ムツゴローさんこと知正憲氏は土産馬駆歩レースで優勝する。知さんは馬と語りながら入念に手入れをしてやる。

山の斜面で倒木の下になり、シヨック状態になった土産馬も救援に駆けつけた知さんの手当てで蘇生する。

この番組はそんな筋骨で進行するが、内容は畑さんが蒙古、ソビエトからハンガリー、ベルギー等で各国の馬と牧場を訪ね歩くという正に「畑さんと馬」といった異色の作となっている。

畑さんは、中国天馬の産地天山山脈に飛び、南山牧場を訪ねるが、そこは四方地平線しか見えない大草原で、家畜と生活する遊牧民と殺食を共にする。カサブ族の達者な馬扱い、赤児を抱いて疾駆する老人の達人ぶり、天山山脈に入ると、峻険な山道には小道しかないが、この地方の馬はその細い山道でUターンする。絶妙な馬自身の妙技を平気でやってのける。

大馬群の移動、畑さんは少年騎手と草原競馬に出るが、残念ながらこれは負け草原競馬には、老若男女、子供が自由に馬を乗りこなし、バオの中は暖かく、女達は手料理に着手する。馬乳、チーズ、



子供たちのポニー乗馬

アルコール六〇％の白酒、羊肉、酒が回るとボンゴラを弾き、娘は歌う。正に桃源郷と畑さんは目を細くする。昼は暑く、時には七〇度位にもなるといだが、夜は冷え込み、極端に寒く、時には零下四〇度になるといから驚く。

更に畑さんはキルギス地方からウズベリ共和国に入り、タシケントの競馬にも出場する。馬は骨太の優秀な乗馬型だ。それは青毛のカラバイ種だ。

ソ連への入国手続きは面倒で六時間もかかってしまう。競馬調教にいそしむのは、立派な洋種型乗馬だ。これはアングロカラバイ種だと畑さんは説明する。役馬でもあり、品格のある競走用乗馬である。

そして畑さんは遂に目的のブルツェワルキー種に出逢う。河原毛（薄茶色）の土着馬で、現在世界七ヶ所に六〇〇頭が保存されている筈という。小格で顔大きく、大目の土さん馬である。背中に細い黒線が一すじあり、それが野生馬の特徴だという。「素晴らしいですね」。畑さんの笑顔は消えない。

馬を訪ねる旅はベルギー、スコットランドに延びて、馬術も見せてくれる。並列して疾走する五頭の馬に立乗りする、五人の勇壮な馬術、シェットランドポニーの行進、トロッターへのベツサーレース（側対歩競走）など各国の馬を訪ねるムツゴローさん。生独特の二時間だった。

40、十二月二十八日 毎日新聞  
朝刊三面記事に、三段抜きの大見出し

で、「ゾロ目大穴一万六千三百円、アレマ（有馬）記念」の記事と、ガツカリしたファン大衆の表情を写真に浮き出した。

これは衆知の中央八大レース（ダービーなど明四才馬の五大レース、二つの天皇賞、年末に行なう有馬記念をいう）。

十一万人のファンを集めた今年の有馬記念は十二月二十七日中山競馬場で行なわれた。これが大破乱となった。その年最高の成績と最大の賞金を獲得した優秀馬十四頭だったが、先づ三番人気のメリーナイスはスタート直後に落馬し、馬の独走となり、一番人気のサクラスターオーは、四コーナーあたりで腫断裂という重傷を負って競走中止となった。一瞬にして大方のファンはむなしく馬券を棒に振り、配当はこのレース始まって以来の大穴となってしまった。何とも痛ましく悲しい事故を目のあたりにしたファンは声も出ないといった沈痛な表情だった。

こんな時つくづく思うのは、ばんえいの歴史に重傷馬など皆無であるということだ。軽傷さえほとんど無く、重い轡を引いて勝負する大型馬にとっては、全力を出し切って疾走する奇醜さより、ずっと楽だといえる。しかもばんえい競走馬は現在世界最高ともいえる大型重量馬で、これだけの大型馬が集まるのは世界のどこにもない。その上レースの面白さを理解できない人も多い。

中央競馬はサラブレッドの日本最高馬を集めている。ばんえい競馬は世界一の重ばん馬を集めている。この大型馬を生

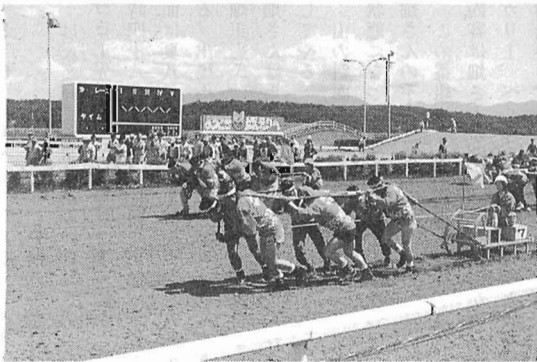
み出した北海道は、馬産を重点にばんえい競馬の理解を深めるべきだろう。



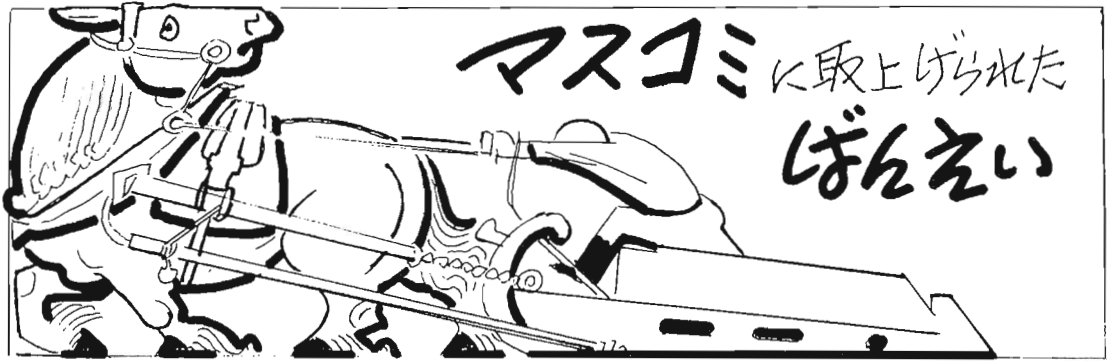
ポニーばんえい大会



ポニー繋駕大会



人間ばんば大会



1、競馬監督

農林水産省畜産局競馬監督課から、ばんえい競走の監督に左記の日程でご来場になり、熱心な監督とご指導を戴いた。

6月17日 岩見沢 熊沢監督課長

6月29、30日 岩見沢 大谷監督官

8月24、25日 帯広 甲斐監督官

10月25日 旭川 西山監督官

11月16日 旭川 甲斐監督官

また北海道競馬事務所からは 関根課長補佐

7月19日 岩見沢 荒谷課長

8月2日 帯広 岩村主任

9月26日 旭川 山本次長

2、千客万来 大沢主査

4月20日 旭川中央警察署長 警視正

4月21日 高橋治郎氏来場

地方競馬全国協会 会長

5月4日 大場敏彦氏来場

道警旭川方面本部長 警視

5月10日 監 川畑久廣氏来場

北海道道議会議員 桜田正

6月30日 明氏来場

静岡県清水市市議会議員一

7月19日 行 9名来場

7月21日 岩見沢市長 国兼孝治氏来

7月27日 場

群馬県沼田市議会議員一行

7名来場

東京都大井区議会議員一行

23名来場

8月25日 岩手県盛岡畜産農協一行

24名来場

9月26日 神居老人クラブ一行47名

10月26日 保安協会 理事長 柚山憲

一氏来場

11月10日 栃木県競馬委員会一行 12

名来場

11月22日 北海道畜産会 事務局長

宇野正春氏来場

12月6日 歌手鳥羽一郎氏来場

3、北見の堀内氏産業貢献賞受賞

ホクレン北見支部の堀内精司氏が、多

年にわたる家畜の生産技術の指導及び流

通の改善に尽力され、北見地域の畜産振

興に貢献された功績により、昭和62年2

月10日、北海道知事からばんえい競走馬

生産者関係としては初の北海道産業貢献

賞が贈られた。

「馬の堀内」で知られる北海道でも数

少い馬の大家であり、特にばんえい競馬

の種雄馬の導入に尽力され、大種雄馬タ

カラコマ号の父馬ケルネウエーズ号のフ

ランスからの輸入及び二世ロッシーニ号、

欄朝号の網走管内への導入等数多くの優

秀なばんえい競走馬の生産指導に貢献さ

れましたが、今後も益々のご活躍される

ことを祈念いたします。

尚5月16日、北見市内でばんえい競馬

の関係者が多数参集し、受賞祝賀会が盛

大に開催されました。

4、ニュージールランドのお客さん

岩見沢競馬場に6月1日、ニュージールランドのタウランガ市でベイ・オブ・ブレンティ競馬クラブの会長を務めるピーター・シモンズさんと夫人のノービーさん、それに理事のR・A・シンクレアさんの三名が来場した。前会長のロバート・シルソンが岩見沢と旭川競馬場に、ばんえい競馬視察に二度訪れており、シモンズさんもぜひ観戦したいと、中央競馬のニュージールランド・トロフィー・レースのカップ授与式に出席の合間をみて今回の訪問となったもの。初めて見るばんえい競馬に「迫力があって面白い」と身乗り出して応援していた。



## 5、楽しかった厩舎の運動会

7月3日に調教師、騎手、厩務員とその家族が集まって、「ばんえい競馬調騎会支部対抗運動会」が岩見沢競馬場で初めて開催された。

競馬開催中は馬とともに各地を転戦して歩き、なかなか家族サービスができない競馬関係者が、夏の日をレクリエーションで楽しもうと、多彩なプログラムが編成され、ばんえい本走路を走る二〇〇米競走、力自慢の綱引、女性がヒップで風船を割る「ケツ匠は正常か」、チビっ子参加の親子レース、支部対抗年代別リレー等々、家族ぐるみで楽しい一日を過ごした。

## 6、キンタロー号種雄馬で好調スタート

61年秋にはばんえい史上初の1億円馬として惜しまれながら引退したキンタロー号は、十勝の幕別町で種雄馬として繋養されているが、62年春の種付シーズン中は二〇〇頭近くの種付をこなし、現役時代そのまゝの活躍ぶりであった。

重種の種付料は5〜6万円が普通であるが、さすがキンタロー号は一億円馬の貫禄で初年度としては破格の15万円也、それでも断り切れない程のモチモチ振りであり、3年後の第二世の活躍が楽しみである。

## 7、ポニーのばんえいとけいが決勝大会

帯広競馬場で8月2日にアトラクションとして、可愛いポニー10頭によるばんえい競走が実施された。

そりはポニー用の小型そりで本走路を



使用しての本格的なレース、単勝式の子想投票(的中者に景品)もあり前人も上々であった。しかしスタートはしたものの、砂の深い本走路で走ったのは初めてのことであり、障害では悪戦苦闘、ファンの声援にこたえることができずに競走中止馬が6頭もでる競走になってしまったが、大変熱の入った競走でファンも熱い拍手を贈っていた。

また一週間後の8月9日には、ポニー10頭によるけいが速歩競走を実施したが、若い競馬ファンからはリヤカー競走だと珍しがられ(けいが速歩競走は北海道では45年で中止)、古いファンからは久しぶりで懐かしい競馬をみせてもらったと大好評であった。

## 8、大荒れ一日平均三、三二二円也

第4回帯広第3日は、最近にない好配当の一日であった。第1Rから、(四七〇円)で始まり、6千円台1R、5千円台1R、3千円台3R、2千円台4R、1千円台1Rで千円以下の配当なしの1R平均三、三二二円の好配当となり、59年第5回旭川第4日の1R平均三、〇八〇円のレコードが更新された。

尚本年度の年間1R平均は一、九三〇円、最低一四〇円、最高二、〇〇〇円で、1千円台が37.6%、2千円台が16.6%、3千円台が7.6%の順番で、平地では割合に多い5百円未満は僅かの5.3%であった。

## 9、乗用車2台のプレゼント

昨年は旭川ではばんえい初の乗用車プレゼントが大好評であったが、今年も帯広と旭川でそれぞれ小型乗用車が一台ずつプレゼントされた。

帯広はスポンサーが帯広日産自動車株式会社、提供車は赤い「ニッサンマーチ」、応募方法は帯広記念を除く5大重賞競走の1着馬を予想し、ハガキまたは場内の投票用紙で応募、9月6日締切で正解者の中から13日に抽選発表、また残念賞として一〇〇名様にオリジナルテレカがプレゼントされた。

旭川はオートラマ旭川の協賛で、白い「オートラマフェステバ」が提供され、農林水産大臣賞競走の1着馬を予想し、帯広同様の方法で応募、10月25日正解者の中から抽選でプレゼントした。



## 10、兄妹で一・二着

第3回旭川第4日10R、第5回ホワイトホースカップ(声毛選抜)で、繁殖雌馬ベル系玉姫(父ペル、リツケイ、母ベル系、緑朗)の産駒が一・二着となり、ばんえい競馬としては珍しいケースなので話題になった。

一着は妹馬のシマノローズ(雌7才、父ペル、二世ロッシニ)で、タイム2分28秒5で割と楽に勝ったが、二着は兄馬のシマノオーザ(雄9才、父半血、タカラコマ)で、2障害後4番手から鋭く追込みゴール前でつかみ辛くも二着、人氣薄の2頭で配当も三、九五〇円の中穴となった。

生産者及び馬主は昔から熱心な馬産家の富良野市山部の嶋田孝四郎さんでした。

### 11、9月に感冒大流行

9月に入り例年に見られない感冒様癩病が大流行、感冒による診療延頭数が一ヶ月間に二〇二頭、特に3才及び4才の若令馬の罹患率が20、25%と高く、昭和47年に全国的に多発したインフルエンザではないかと心配したが、十勝家畜保健衛生所に病性検定を依頼した結果、インフルエンザ及びゲタウイルスは陰性なるも馬鼻肺炎ウイルス陽性馬が散見されるので、今回の感冒様癩病は馬鼻肺炎ウイルスによるものとの通知を受けて胸をおろした。10月に入り猛威も稍沈静、10日頃から患畜もなくなり、感冒大旋風も終結を見ることができた。

### 12、西康幸騎手年間一〇〇勝突破

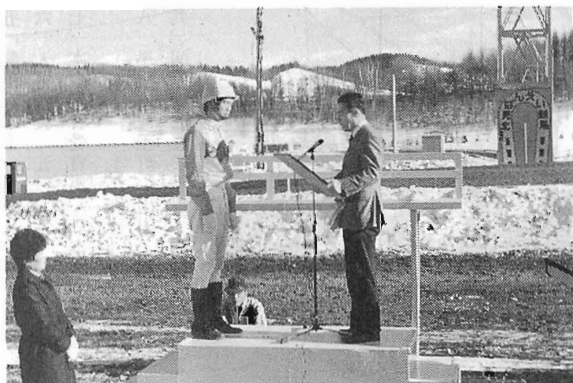
西兄弟の弟康幸騎手は、第5回北見5日目第4Rのクリイワイ号で念願の一〇〇勝を達成した。年間一〇〇勝を突破した騎手は、現役では金山、藤本騎手に続いて3人目、通算5人目(山田調教師、工藤元騎手)の偉業であった。

最終的には年間一〇六勝、勝率14.4%で、本会騎手表彰規程に基づき優秀騎手表彰第1位、日刊スポーツ新聞社リレーテングジョッキ第1位、ばんえい専門紙記者クラブ賞第2回ばんえい大賞の3賞を受賞した。

### 13、今年度の勇退調教師

北見競馬の最終日12月8日に、坂下弥作、田上正、南坂俊雄の3名の調教師が後進に路を譲り勇退された。

3名共に大正10年生れの満66才で、永



年にわたりばんえい競馬発展のために尽力され、今年度かぎり競馬場生活に終止符を打つことになり、表彰状、記念品の授与及び新人騎手からの花束贈呈後、厩舎関係者の熱い拍手に見送られて競馬をあとにした。永い間ご苦労様でした。

### 14、単勝式五六二四〇円の大穴

12月7日、第6回北見第5日3Rの3才競走で、単勝式五六、二四〇円の大穴がでて、レコードを更新した。

10頭立て新人前原陽介騎手の騎乗した最低人気ヒカルトウショウ号が、すばらしい追込みでアイスニセイ号をゴール直前でつかみ1着となり、単勝式が大穴となったもので、帯広場外発売所で1枚しか発売されていなかった。連複も万馬

券となり一三、七八〇円の好配当で場内は沸きにわいた。

更新前のレコードは、57年5月22日第11Rの単勝式二七、五三〇円であった。

### 15、零下20度日本最低の寒地競馬

最北端の北見競馬場の12月競馬は寒かった。毎日の様に零下10度以下が続き、場内の道路や走路はカチカチに凍り、本走路をシートで覆う等整備には一苦勞しましたが、幸にも昨年からさきみ踏鉄を使用しているので、滑走による事故は一件も発生しなかった。

一番寒かったのは12月6日で、午前6時発表で零下20度まで下り今冬一番の冷込みとなったが、競馬開催日の最低気温の日本記録ではなからうか。

また12月2日には、積雪の少ない北見地方としては珍らしい48cmの大雪となり、丁度中3日の休催日の初日で助かったが、開催日であったら2、3日の順延となるどころであった。

### 16、場外発売大当りの北見秋競馬

ホッカイドウ競馬が11月12日で終了したため、12月14日以降の北見競馬の場外発売は競合することがなく、旭川レーシングセンター(市内場外)及び帯広、岩見沢両競馬場でフル発売、釧路場外も単独発売となり場外様々の秋の北見競馬となった。

秋競馬4開催の場外比率は61.0%、年間6開催は59.2%の高率であり、1期最高は第6回の64.0%、一日最高は第4回第6日の70.1%、1R最高は第

6回第2日9Rの76.5%で、日本中央競馬会の場外比率に接近してきた。

尚10月19日から発売した旭川レーシングセンターは好調に伸び、ばんえい単独発売であれば1日1億円突破が3日間あり、最高は年度最終日の12月8日で1億三、三四六万円の好成績であった。

### 17、見やすくなったゴール板

本年度から場外発売所に映像伝送を毎レース実施したところ、場外ファンからばんえい競走のゴールラインが若干見づらいとの苦情の声があり、その対策として岩見沢競馬場を皮切りに、四競馬場ともにゴール板を馬蹄型に改善したが、色彩的にも美しく大変見やすくなったとファンから好評を得ました。





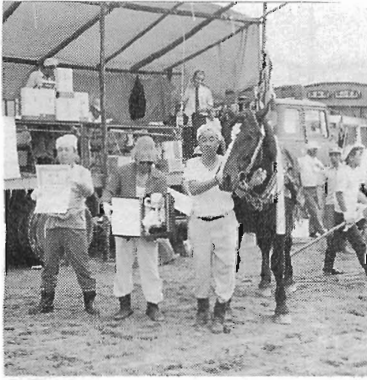
# ばんば祭典

昭和四十八年度より実施している本会馬産奨励事業の一環である祭典（記念）ばん馬競走も年々内容が充実し各主催者の努力のほどがうかがえます。今後とも市営競馬発展のために馬産奨励に御協力をお願いします。

祭典（記念）ばん馬競走もバラエティー豊かな競走内容が多く盛り込まれており、ここに各主催者から送られてきた終了報告書をもとに紹介します。

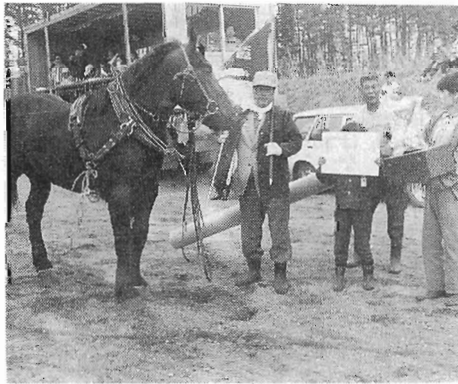
## ○第十八回全松山鞍馬大会

- 一、主催 江差町畜産連絡協議会  
会長 高島 秀夫
- 二、開催日 三月二十九日
- 三、場所 江差町字水堀町 特設会場
- 四、出走頭数 四十頭
- 五、競走数 十レース
- 六、入場者数 五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 日本海 半血種 雄二歳
- 八、馬主 江差町 山田 常雄
- 九、明年度開催の予定 四月上旬



## ○第十二回北渡島家畜産茅部支部競馬競技大会

- 一、主催 北渡島家畜産協同組合茅部支部  
支部長 西村忠三郎
- 二、開催日 五月十日
- 三、場所 森町共進会場
- 四、出走頭数 八十二頭
- 五、競走数 二十レース
- 六、入場者数 五、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 長万部力 ベル種 雄二歳
- 八、馬主 長万部町 大橋 伸一
- 九、明年度開催の予定 五月中旬



## ○豊浦町ばんば競技大会

- 一、主催 豊浦町馬産改良同志会  
会長 矢野 清志
- 二、開催日 六月七日
- 三、場所 豊浦町字桜スカンジア広場

- 四、出走頭数 七十四頭
- 五、競走数 十六レース
- 六、入場者数 三〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 蒲桜 ベル種 雄二歳

- 八、馬主 長万部町 谷口 畜産
- 九、明年度開催の予定 六月五日



## ○第三十七回池田町鞍馬競技大会

- 一、主催 池田町鞍馬愛好会  
会長 黒川 俊男
- 二、開催日 六月十五日
- 三、場所 池田町清見ヶ丘特設会場
- 四、出走頭数 五十三頭
- 五、競走数 二十四レース
- 六、入場者数 五〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ノサツパ 雌三歳
- 八、馬主 根室市 下内 畜産
- 九、明年度開催の予定 六月十五日



○努夷王山祭り

- 一、主催 上ノ国鞍馬組合  
組合長 武田 時義
- 二、開催日 六月二十一日
- 三、場所 上ノ国町夷王山特設会場
- 四、出走頭数 五十八頭
- 五、競走数 十九レース
- 六、入場者数 二四〇名
- 七、本会副賞受賞馬 清桜 雄二歳
- 八、馬主 長万部 谷口 武夫
- 九、明年度開催の子定 六月二十日
- 西胆振ばん馬競技大会
- 一、主催 西胆振ばん馬競技大会  
大会長 高橋 泰雄
- 二、開催日 七月十二日
- 三、場所 蛇田町家畜センター
- 四、出走頭数 九十頭
- 五、競走数 二十二レース

- 六、入場者数 八〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 タカノ号 半血 雄二歳
- 八、馬主 厚沢部町 高野 忠
- 九、明年度開催の子定 七月十日
- 第五回黒松内町ばん馬競技会
- 一、主催 黒松内町愛馬同志会  
会長 小林 幸作
- 二、開催日 八月十四日
- 三、場所 黒松内町家畜共進会場
- 四、出走頭数 四十四頭
- 五、競走数 十五レース
- 六、入場者数 三〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 北洋 半血 雄二歳
- 八、馬主 乙部町 小田 洋市
- 九、明年度開催の子定 八月十四日
- 第十七回今金町産業まつり協賛鞍馬大会
- 一、主催 今金町連合愛馬会  
会長 大越 藤夫
- 二、開催日 八月十六日
- 三、場所 今金町 後志利別川河畔
- 四、出走頭数 四十二頭
- 五、競走数 十六レース
- 六、入場者数 二八〇名
- 七、本会副賞受賞馬 勝姫号 半血 雌二歳
- 八、馬主 森町 伊藤 六雄
- 九、明年度開催の子定 八月十六日



○第三十四回長沼相馬神社奉納ばんば大会

- 一、主催 長沼相馬神社  
祭典委員長 広川 鉄次
- 二、開催日 八月十七日
- 三、場所 長沼町農村広場
- 四、出走頭数 四十頭
- 五、競走数 十レース
- 六、入場者数 三五〇名
- 七、本会副賞受賞馬 竹男姫号 半血 雌三歳
- 八、馬主 長沼町 山田 勇二
- 九、明年度開催の子定 八月十七日
- 第二十七回鹿追町瓜幕競馬競技大会
- 一、主催 鹿追町瓜幕競馬会  
会長 菊地 義憲

- 二、開催日 八月二十一日
- 三、場所 鹿追町瓜幕競馬場
- 四、出走頭数 五十六頭
- 五、競走数 二十九レース
- 六、入場者数 七〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 パロヒメ 雌二歳
- 八、馬主 湧別町 梅津 茂雄
- 九、明年度開催の子定 八月二十一日
- 第十回下川町鞍曳競技大会
- 一、主催 下川馬産振興会  
会長 上村 利雄
- 二、開催日 八月三十日
- 三、場所 名寄川緑地公園共進広場
- 四、出走頭数 五十一頭
- 五、競走数 二十三レース
- 六、入場者数 一、六〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 芳英号 半血 雌八歳
- 八、馬主 下川町 川崎 金作
- 九、明年度開催の子定 八月二十八日
- 第十二回標津・中標津連合馬事競技大会
- 一、主催 標津・中標津地区馬事愛好会  
会長 秋山 隆男
- 二、開催日 八月三十日
- 三、場所 中標津町南中特設競馬場
- 四、出走頭数 百五十一頭
- 五、競走数 二十七レース
- 六、入場者数 五、〇〇〇名
- 七、本会副賞受賞馬 ダイサンエンゼル 半血 雄十二歳
- 八、馬主 標茶町 堀 忠夫
- 九、明年度開催の子定 八月二十八日



○滝上町鞍馬競技大会

一、主催 滝上町相馬妙見神社愛馬講

会長 斉藤 忠治

二、開催日 九月一日

三、場所 滝上町幸町鞍馬競技場

四、出走頭数 四十頭

五、競走数 二十二レース

六、入場者数 一、五〇〇名

七、本会副賞受賞馬 宝姫号

九、明年度開催の予定 九月一日 半血 雌三歳

○第七十八回音更町東土幌幌曳競馬大会

会

一、主催 音更町東土幌幌曳競馬会

会長 長沢 邦雄

二、開催日 九月二日

三、場所 音更町東土幌神社境内

四、出走頭数 五十九頭

五、競走数 二十一レース

六、入場者数 一、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 アサミ 半血 雌三歳

八、馬主 遠軽町 新木 正

九、明年度開催の予定 九月二日

○第十三回根室市馬事競技大会

一、主催 根室市馬事振興会

会長 矢部 博之

二、開催日 九月六日

三、場所 根室市馬事公園

四、出走頭数 七十六頭

五、競走数 二十二レース

六、入場者数 五、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 グイサンエンゼル 半血 雄十二歳

八、馬主 標茶町 堀 忠雄

九、明年度開催の予定 九月十一日

○第三十七回穂別町ばんえい競技大会

一、主催 穂別町馬産振興会

会長 小林 繁

二、開催日 九月六日

三、場所 穂別町家畜共進会場

四、出走頭数 四十頭

五、競走数 二十二レース

六、入場者数 四〇〇名

七、本会副賞受賞馬 リメンパーホース ベル系 雌二歳

八、馬主 穂別町 多村 春信

九、明年度開催の予定 九月四日



○第十四回弟子屈町鞍馬競技大会

一、主催 弟子屈町馬産振興同志会

会長 渡辺 三郎

二、開催日 九月十三日

三、場所 弟子屈町鞍馬競技場

四、出走頭数 四十八頭

五、競走数 十七レース

六、入場者数 一、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 ワタナベ号 半血 雌三歳

八、馬主 弟子屈町 渡辺三郎

九、明年度開催の予定 九月十一日

○第二十回足寄町ばんば大会

一、主催 足寄町鞍馬協会

会長 尾岸 徳雄

二、開催日 九月十五日

三、場所 足寄町里見ヶ丘公園

四、出走頭数 七十九頭

五、競走数 三十二レース

六、入場者数 八〇〇名

七、本会副賞受賞馬 マツノリュウ 八、馬主 阿寒町 長村 豊司

九、明年度開催の予定 九月二十三日



○第十回本別町ばん馬競技大会

一、主催 本別町馬事振興会

会長 林 千代吉

二、開催日 九月十九日

三、場所 本別町農協品評会場

四、出走頭数 六十八頭

五、競走数 二十八レース

六、入場者数 五〇〇名

七、本会副賞受賞馬 望号 半血 雌三歳

八、馬主 本別町 久常 修

九、明年度開催の予定 九月中旬



○第十三回上士幌町幌曳競馬大会

一、主催 上士幌町幌曳同好会

会長 西村 忠義

二、開催日 九月二十日

三、場所 上士幌町幌曳競馬場

四、出走頭数 八十二頭

五、競走数 二十八レース

六、入場者数 四〇〇名

七、本会副賞受賞馬 タイサンエンゼル

半血 雄十二歳

八、馬主 標茶町 堀 忠雄

九、明年度開催の予定 九月三十日

○厚沢部町産業祭り協賛競馬競技大会

一、主催 厚沢部町馬事振興会

会長 二本 茂樹

二、開催日 九月二十三日

三、場所 厚沢部町ばん馬競技場

四、出走頭数 七十二頭

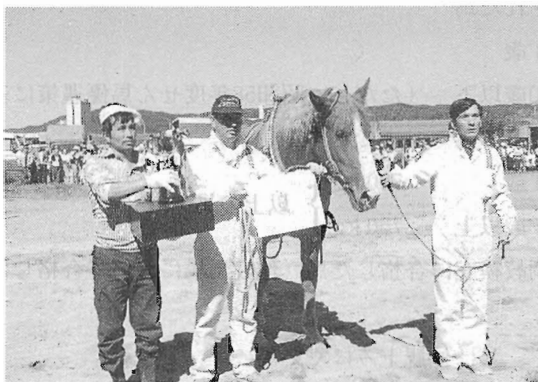
五、競走数 十八レース

六、入場者数 六五〇名

七、本会副賞受賞馬 栗駒 雄二歳

八、馬主 森町 伊藤 六雄

九、明年度開催の予定 九月二十三日



○第十六回幕別町幌馬競技大会

一、主催 幕別町幌馬競技大会

実行委員長 国枝 光明

二、開催日 九月二十三日

三、場所 幕別町幌馬特設会場

四、出走頭数 八十七頭

五、競走数 二十七レース

六、入場人員 九五〇名

七、本会副賞受賞馬 ジャンデイヒメ号

重半血 雌二歳

八、馬主 幕別町 徳野 登

九、明年度開催の予定 十月二日

○第二十回佐呂間町競馬大会

一、主催 佐呂間町馬産振興

会長 栄 元治

二、開催日 九月二十六日

三、場所 佐呂間町家畜センター

四、出走頭数 五十三頭

五、競走数 二十六レース

六、入場人員 一、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 サロトツア号

ベル系 雌二歳

八、馬主 佐呂間町 千葉 四郎

九、明年度開催の予定 九月二十六日

○第十四回馬事愛好同志会

一、主催 別海町馬事愛好同志会

会長 半田 秀雄

二、開催日 九月二十六・二十七日

三、場所 別海町農村広場 馬事競技場

四、出走頭数 百八十九頭

五、競走数 三十四レース

六、入場者数 三、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 タイサンエンゼル

雄十二歳

八、馬主 標茶町 堀 忠雄

九、明年度開催の予定 九月十・十一日

○浜中町畜霊祭典

一、主催 浜中町農民祭実行委員長

浜中町長 渡部 和雄

二、開催日 十月十一日

三、場所 浜中町 浜中競馬場

四、出走頭数 九十六頭

五、競走数 二十八レース

六、入場者数 一、〇〇〇名

七、本会副賞受賞馬 テツリキ

八、馬主 上勇別町 小野 勝一 雄二歳

九、明年度開催の予定

○第八回浦町ばん馬大会

一、主催 浦幌町馬産振興協議会

会長 坂口 岩夫

二、開催日 八月二十日

三、場所 浦幌町帯富特設馬場

四、出走頭数 五十八頭

五、競走数 二十七レース

六、入場者数 四五〇名

七、本会副賞受賞馬 イワテコマ号

半血種 雄九歳

八、馬主 阿寒郡幌呂 日転 好拡

九、明年度開催の予定 八月二十日



## 番組編成要領

### 1. 出走馬の資格

次の各号全部の条件をそなえていること。

- (1)地方競馬全国協会の登録を受けた馬
- (2)軽種および軽半血種以外の馬
- (3)日本国内で生産された馬
- (4)新馬 3歳  
古馬 10歳以下 (ただし、昭和58年度せん馬優遇策に基づきせん馬となった馬は11歳までとする。)
- (5)馬体重 3歳 700 kg } 以上の馬  
4歳以上 750 kg }
- (6)馬体検査、能力調教検査に合格した馬 (他競馬場において合格した馬を含む)

### 2. 出走の拒否

- (1)こ疾の程度が重く、又は外観上みにくい馬
- (2)出走取消をした馬及び競走除外馬 (同枠除外を除く) は、その開催の残余期間
- (3)尋常てい鉄を使用しない馬。ただし、委員長が特に処置を認めた場合はこの限りでない。
- (4)失明馬、片眼の視力が正常でない馬

### 3. 出走頭数の制限及び競走の取り止め

- (1)1競走における出走頭数は、10頭以下とする。
- (2)普通競走において、前項に定める頭数を超えて出走投票があった場合は、抽選により出走馬を決定する。
- (3)前項により出走できなかった馬は、競馬番組で示す当該馬が出走できる最初の競走に限り出走投票した馬に優先出走を認める。
- (4)出走投票の結果、1競走の頭数が6頭以下の場合は、その競走を取り止め新たに競走を設けることができる。

### 4. 騎乗の制限及び減量騎乗騎手の取扱い

#### (1)騎乗の制限

ア、騎乗騎手の1日の騎乗回数は6回までとし、連続騎乗できる回数は3回を限度とする。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

イ、騎乗を変更した騎乗騎手は、翌日の騎乗を認めない。ただし、委員長が特に認めた場合はこの限りでない。

#### (2)減量騎乗騎手の取扱い

ア、減量騎乗騎手は、数え年30歳以下の騎乗騎手で通算勝利率度数30勝未満の者とする。出走表には△印で表示する。

イ、減量騎乗騎手扱いですでに出走投票された競走については30勝以上となっても減量騎乗騎手と同様の扱いとする。

ウ、減量騎乗騎手は、重賞・特別競走を除きばんえい重量 10 kg 減量する。

## 5. 格 付

取得賞金額（1着～5着までの本賞金）により格付し、年齢別に次のとおりとする。なお、取得賞金は特に記載のない限り前回催までの合計とする。ただし、7歳以下の雌馬のみで編成した競走の取得賞金は1/2とする。

- (1) 3 歳 3歳馬のみとし、取得賞金額順に編成する。
- (2) 4・5歳 4・5歳馬の混合編成とし、通算取得賞金により下記のとおりクラス分けする。なお、通算取得賞金400万円以上の馬は、4歳以上の同額賞金クラスに格付する。

取得賞金	400万円未満	300万円未満	200万円未満	120万円未満
------	---------	---------	---------	---------

- (3) 4歳以上 4歳以上の混合編成とし、昭和60年以降の取得賞金により、下記のとおりクラス分けする。なお、昭和60年以降の取得賞金1,300万円以上の馬をオープンとする。

取得賞金	オープン	1,300万円未満	1,000万円未満	850万円未満	700万円未満	550万円未満	400万円未満
------	------	-----------	-----------	---------	---------	---------	---------

## 6. 負担重量

(1) 騎手重量 騎手重量は75 kg とする。

(2) ばんえい重量

ア、一般競走におけるばんえい重量は次表のとおりとする。

格 付	4 歳 以 上							4 ・ 5 歳				3 歳
ク ラ ス	オープン	1,300万円未満	1,000万円未満	850万円未満	700万円未満	550万円未満	400万円未満	400万円未満	300万円未満	200万円未満	120万円未満	
ばんえい重量	700 kg	700 kg	680 kg	660 kg	640 kg	620 kg	600 kg	620 kg	600 kg	580 kg	560 kg	4月17日～9月13日 500 kg 9月18日～11月7日 510 kg 11月12日～12月7日 520 kg
備 考	※番組編成委員が指定した競走（勝入、2回使い、2クラス以上によって編成された競走等）のばんえい重量は別定重量とする。 ※4・5歳120万円未満は、7月24日から200万円未満に編入し、10 kg 減量する。 ※3歳は本年取得賞金60万円につき10 kg 加増する。											

イ、重賞・特別競走におけるばんえい重量は概定番組において基礎重量を発表し、通算取得賞金（昭和60年以降の取得賞金）及び本年取得賞金により加増を行う。

ウ、4・5歳馬で4歳以上に格付された馬は10 kg 減量する。

エ、3歳及び4歳馬のせん馬は10 kg 減量する。

オ、7歳以下の雌馬は20 kg 減量とし、9歳、10歳の雌馬は10 kg 減量する。ただし、8歳の雌馬は減量しない。

## 7. 昭和58年度以降に新馬登録をした雌馬の取扱い

昭和58年度以降に新馬登録した雌馬については7歳までばんえい重量を20 kg 減量し、雌馬のみで編成した競走の取得賞金は1/2とする。なお、8歳以降は優遇措置をしない。

8. この要領に定めるものの他、番組編成上必要な事項については、番組編成会議で別に定める。

# 昭和63年度 {旭川市・帯広市} 地方競馬報償費支給基準

(趣 旨)

第1条

この基準は {旭川市地方競馬実施条例(以下「条例」という。)  
帯広市地方競馬実施条例規則(以下「規則」という。)  
北見市地方競馬実施規則(以下「規則」という。)  
岩見沢市地方競馬実施条例施行規則(以下「規則」という。)}

{旭川市地方競馬実施条例規則(以下「規則」という。)  
帯広市及び北見市地方競馬実施要綱(以下「要綱」という。)  
岩見沢市地方競馬施行細則(以下「細則」という。)} 及び {旭川市、帯広市  
北見市、岩見沢市}

地方競馬番組により開催する地方競馬(市営競馬)に参加した馬の馬主、調教騎手、騎乗騎手、きゅう務員及び生産者に対する報償金の支給に関し必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第2条 この基準において、「馬主」、「調教騎手」、「騎乗騎手」、「きゅう務員」とは、

{条例第5条(旭川市)  
規則第4条(帯広市、北見市及び岩見沢市)} に定める者をいう。

(報償金の種類及び支給額)

第3条 報償金の種類及び支給額は、次のとおりとする。

## 1. 馬主に関する報償金

格のある馬の馬主に対し、1頭につき1回を限度として下記の金額を支給する。

(1) 賞 金 競走に出走し、

{条例第69条(旭川市)  
規則第67条(帯広市、北見市及び岩見沢市)}

輸送手当	12,000円
------	---------

の規定

により、確定した着順が第1着から第5着までの馬の馬主に対し、競馬番組で示した金額を支給する。

(2) 出走手当

競走に出走した馬の馬主に対し、1開催1頭につき、次により支給する。但し、当該開催において特別報償の受給対象となった場合は、1出走したものとす。

1 出 走 目	50,000円
2 出走目以降1出走につき	10,000円

(3) 着外手当

競馬番組に定められた重賞及び特別競走に出走し、確定した着順が第6着以下の馬の馬主に対し、次の区分により支給する。ただし、失格及び競走中止の場合は支給しない。

重賞競走	1着賞金300万円以上	100,000円
	1着賞金300万円未満	40,000円
特別競走		25,000円

(4) 輸送手当

開催市毎の連続開催期間内における競走に出走した馬、又は特別報償金の受給資

## 2. 騎手に関する報償金

(1) 調教奨励金

ア、競走に出走した馬の調教騎手に対し、次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1 着	2 着	3 着	4着以下
27,000円	23,000円	18,000円	13,500円

イ、{条例第102条(旭川市)  
規則第99条(帯広市、北見市及び岩見沢市)}の規

定により調教業務の委託を受けた調教騎手に対し、当該競走に係わる調教奨励金を支給する。

(2) 騎乗奨励金

競走に出走した馬の騎乗騎手に対し、次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1 着	2 着	3 着	4着以下
18,000円	14,000円	12,000円	9,500円

## 3. きゅう務員に関する報償金

(1) きゅう務奨励金

{条例第46条(旭川市)  
規則第44条(帯広市、北見市及び岩見沢市)}の規定

により装鞍所に集合した馬の管理きゅう務員に対し、管理頭数4頭を限度とし次により支給する。ただし、当該競走において戒告以上の処分を受けたときは支給しないものとする。

1 着	2 着	3 着	4 着以下
17,000円	13,000円	11,000円	8,500円

#### 4. 特別報償金

次に該当する馬の馬主、騎手及びきゅう務員に対し、次により支給する。

支給の範囲	特別報償金の種類	支給対象者及び支給額			
		馬主	調教騎手	騎乗騎手	きゅう務員
ア、 $\left. \begin{array}{l} \text{条例第33条(旭川市)} \\ \text{規則第31条(帯広市、北見市及び岩見沢市)} \end{array} \right\}$ の規定により、出走投票の結果、制限頭数を超えたため抽選により出走できなくなったとき、又は1競走の出走頭数が6頭以下のため競走が取り止めになった場合。ただし、当該開催において不成立、抽選もれとなった競走以後に当該馬が出走できる競走がある馬は除く。	賞金	当該競走の5着賞金相当額 但し、30,000円を限度とする			
	出走手当	1 出走予定目 50,000円 2 出走目以降 10,000円	—	—	—
	輸送手当	12,000円	—	—	—
	調教奨励金	—	13,500円	—	—
	騎乗奨励金	—	—	9,500円	—
	きゅう務奨励金	—	—	—	8,500円
イ、 $\left. \begin{array}{l} \text{条例第49条、第50条、又は第51条(旭川市)} \\ \text{規則第47条、第48条、又は第49条(帯広市、北見市及び岩見沢市)} \end{array} \right\}$ の規定により、競走除外等と同枠のため除外(友引)になったとき。	賞金	当該競走の3着賞金相当額			
	出走手当	1 出走予定目 50,000円 2 出走目以降 10,000円	—	—	—
	輸送手当	12,000円	—	—	—
	調教奨励金	—	18,000円	—	—
	騎乗奨励金	—	—	12,000円	—
	きゅう務奨励金	—	—	—	11,000円
ウ、 $\left. \begin{array}{l} \text{条例第23条第2項(旭川市)} \\ \text{規則第21条第2項(帯広市、北見市及び岩見沢市)} \end{array} \right\}$ の規定により天災その他やむを得ない理由により開催当日に競馬又は競走を取り止めたとき。	賞金	当該競走の5着賞金相当額			
	出走手当	1 出走予定目 50,000円 2 出走目以降 10,000円	—	—	—
	輸送手当	12,000円	—	—	—
	調教奨励金	—	13,500円	—	—
	騎乗奨励金	—	—	9,500円	—
	きゅう務奨励金	—	—	—	8,500円

#### 5. 同着における報償金の支給

着順が確定した馬が同着の場合における報償金について

ては  $\left. \begin{array}{l} \text{規則第10条(旭川市)} \\ \text{要綱第9条(帯広市及び北見市)} \\ \text{細則第10条(岩見沢市)} \end{array} \right\}$  の規定により

支給する。

#### 6. 生産者に関する報償金

##### (1) 生産者賞

競馬番組に定められた重賞競走に出走し、確定した着順が第1着となった馬の生産者に対し、支給する。ただし、当該競走実施日において生存又は現存する生産者とする。

生産者賞	重賞競走の1着賞金の3%相当額
------	-----------------

ア、着順が確定した馬が同着の場合においては、同着となった総頭数で等分した金額を支給する。

#### 7. 報償金に対する納税

ア、騎手に支給する諸報償金については、その10%を主催者が徴収して納税する。

イ、馬主に対し、1回の支払賞金が75万円を越える場合は、下記の算式により主催者が徴収して納税する。

$$\left( \text{賞金} - \left( \text{賞金} \times \frac{20}{100} + 60 \text{万円} \right) \right) \times \frac{10}{100}$$



## 昭和62年度種雄馬ランキング

### 3 才

順位	種類	馬名	頭数	出走回数	勝利度数	取得賞金(円)	前年順位	主な産駒
1	ベルジ	ジャンデュマレイ	19	393	44	30,436,000	1	マルミオーカン
2	半血	タカラハヤブサ	13	250	28	22,692,500	2	コスモテイエー
3	ベルジ	マルゼンストロングホース	7	112	16	12,569,000	4	ゴジエルクイーン
4	半血	ハシリコマ	3	37	7	10,720,000	24	スーパコマヨシ
5	ベル系	スイシヨウ	3	47	9	9,181,000	—	キンシャドー
6	半血	ゴウカイ	8	163	12	9,134,000	7	ヒカルトウシヨウ
7	半血	アサミドリ	4	73	9	7,930,000	10	ミドリゴゼン
8	ブル系	キタノテンリュウ	7	132	14	7,696,500	3	トヨタクラ
9	半血	富士	3	64	11	7,525,000	9	ホッカイリュウ
10	半血	ハクリュウ	8	125	9	7,045,000	12	アイザン

### 4・5才

順位	種類	馬名	頭数	出走回数	勝利度数	取得賞金(円)	前年順位	主な産駒
1	半血	タカラハヤブサ	19	396	51	26,345,000	3	ヒメサクラ
2	ブル系	キタノテンリュウ	14	300	45	25,626,000	6	キタノリュウ
3	ベルジ	ジャンデュマレイ	14	301	35	25,184,000	2	ニューフロンテヤ
4	半血	タカラコマ	18	353	33	20,510,000	1	ミスカチドキ
5	ベル	第二オデオ	5	85	14	17,212,000	8	ホマレカップ
6	半血	マツノコトブキ	5	104	18	13,925,000	11	ヒカルテンリュウ
7	ベル	二世ロッシーニ	10	198	18	11,473,000	5	メイズイリキ
8	ベルジ	マルゼンストロングホース	6	128	18	11,108,000	4	ヒメクイン
9	半血	アサミドリ	3	69	17	10,198,000	—	ダイコークイン
10	半血	ハクリュウ	3	59	9	7,917,000	21	カツマサオーカン

### 6才以上

順位	種類	馬名	頭数	出走回数	勝利度数	取得賞金(円)	前年順位	主な産駒
1	ベル	二世ロッシーニ	28	616	61	56,035,500	1	ホマレベンケイ
2	半血	タカラコマ	30	565	47	56,000,000	2	タカラフジ
3	ベルジ	ジャンデュマレイ	27	576	60	52,801,500	3	ケンリュウ
4	ベルジ	マルゼンストロングホース	20	404	44	51,806,000	4	マルトクイン
5	ベル	楓朝	14	293	28	24,330,500	5	キンタイコー
6	ブル	キブロク	2	41	7	17,045,000	16	ハクマサヒカリ
7	ベル	ボルール	7	137	11	13,943,000	6	ハイスピード
8	半血	シゲノハラ	6	132	16	12,128,000	11	シゲノフラワー
9	ベル	管敬	2	32	3	11,140,000	9	イワイサミ
10	半血	ゴウカイ	2	37	4	10,643,000	—	カネミフロンティア

## 昭和62年度賞金受賞ランキング

### 3 才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	生産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	キンシャドー	ベル系 スイショウ	ベル ジャバ	牡	3	本別町	本寺頼勝	7,690,000
2	スーパコマヨシ	半血 ハシリコマ	半血 第一初姫	牡	3	美深町	南日出男	6,552,000
3	ゴジエルクイーン	ベルジ マルゼンストロングホース	ベル系 ベニトップ	牝	3	深川市	高橋 悟	5,330,000
4	コスモテイオー	半血 タカラハヤブサ	ブル系 小百合	牡	3	足寄町	富田忠雄	4,430,000
5	ミドリゴゼン	半血 アサミドリ	ベル 初春	牝	3	夕張市	松田 昇	4,402,000
6	ホッカイリュウ	半血 富士	半血 鶴山	牡	3	弟子屈町	坂野一弥	4,110,000
7	マルミオーカン	ベルジ ジャンデュマレイ	ベル 第十三イデコメーの一	牡	3	幕別町	大西武男	4,011,000
8	オザキング	半血 ハシリコマ	半血 マレイヒメ	牡	3	下川町	鴨田清一	3,973,000
9	オホーツクボーイ	ベルジ ジャンデュマレイ	半血 武姫	牡	3	幕別町	万藤茂太郎	3,898,000
10	ピラトリクイーン	ベル系 キョクイチ	半血 イワオウザン	牝	3	平取町	樫野 勇	3,538,000

### 4・5才

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	生産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	ホマレカップ	ベル 第二オデオン	半血 宝姫	牡	5	足寄町	後藤有弘	9,590,000
2	ハマキクヒメ	半血 ハマカゼ	半血 菊花	牝	5	幌加内町	佐藤昌夫	7,181,000
3	ダイコークイン	半血 アサミドリ	半血 ツガルホマレ	牝	4	森町	笹川勝弥	6,775,000
4	ヒカルテンリュウ	半血 マツノコトブキ	半血 第二太陽	牡	5	池田町	牧野 一	5,835,000
5	カツマサオーカン	半血 ハクリュウ	半血 松姫	牝	4	常呂町	馬木定雪	5,409,000
6	イエヤス	半血 アラミノル	半血 クシロホープ	牡	4	佐呂間町	紫田秀男	5,103,000
7	シャルマン	ベル 第二オデオン	半血 ハクヨウ	牡	4	足寄町	相沢裕子	4,735,000
8	ニューフロンテヤ	ベルジ ジャンデュマレイ	ブル系 能信	牡	5	豊頃町	川向義信	4,415,000
9	ヤマトニシキ	半血 マツノコトブキ	ブル系 キブ姫	牡	4	池田町	京極 広	4,379,000
10	キタノリュウ	ブル系 キタノテンリュウ	半血 五月姫	牡	5	虻田町	野々村 継	4,180,000

### 6才以上

順位	競走馬名	父馬名	母馬名	性	年令	生産地	生産者	取得賞金額 (円)
1	タカラフジ	半血 タカラコマ	ブル系 能信	牡	7	豊頃町	川向義信	15,140,000
2	ハクマサヒカリ	ブル キブク	半血 雅勇	牡	10	池田町	太田和治	13,095,000
3	イワイサミ	ベル 管敬	半血 前進	牡	10	旭川市	岩城米光	9,360,000
4	カネミフロンティア	半血 ゴウカイ	半血 第二栄花	牡	6	中標津町	池田 明	8,050,000
5	マルトクイン	ベルジ マルゼンストロングホース	ベル系 栗姫	牝	8	新得町	深川繁信	7,470,000
6	ハイスピード	ベル ホルール	半血 宝花	牡	10	白糠町	藤田竹蔵	7,270,000
7	ハウショウリキ	ベルジ マルゼンストロングホース	ベル系 ベニトップ	牡	6	深川市	高橋 悟	6,660,000
8	イケズキ	半血 バンユウハ	ベル 初春	牡	8	夕張市	松田 昇	5,705,000
9	ロイヤルホース	ベルジ マルゼンストロングホース	半血 呂博	牡	9	北竜町	道下義三	5,535,000
10	ホマレベンケイ	ベル 二世ロッシーニ	半血 宝勇	牡	10	東藻琴村	吉井 勇	5,290,000

## 昭和62年度市営競馬成績

主催市	回別	売 得 金 額 (円)		賞 金 額 (円)	入 場 人 員 (場内:人)	
		1 開 催	1 日 平 均		1 開 催	1 日 平 均
旭川市	1	957,802,000	159,633,667	44,701,000	17,213	2,869
	2	1,235,613,200	205,935,533	50,405,000	21,897	3,650
	3	1,218,983,500	203,163,917	53,082,000	18,403	3,067
	4	1,079,215,800	179,869,300	59,766,000	13,567	2,261
	5	1,322,132,500	220,355,417	58,054,000	18,124	3,021
	6	1,305,313,700	217,552,283	65,784,000	10,843	1,807
	計	7,119,060,700	197,751,686	331,792,000	100,047	2,779
帯広市	1	969,645,900	161,607,650	43,263,000	13,630	2,272
	2	1,039,986,200	173,331,033	46,713,000	19,072	3,179
	3	1,180,636,400	196,772,733	43,235,000	14,529	2,422
	4	1,139,678,000	189,946,333	45,028,000	14,732	2,455
	5	1,076,322,500	179,387,083	48,995,000	14,514	2,419
	計	5,406,269,000	180,208,967	227,234,000	76,477	2,549
北見市	1	809,547,000	134,924,500	35,782,000	10,582	1,764
	2	914,996,100	152,499,350	37,942,000	9,353	1,559
	3	1,042,248,600	173,708,100	39,778,000	10,921	1,820
	4	1,080,223,500	180,037,250	38,662,000	7,820	1,303
	5	1,344,297,000	224,049,500	42,999,000	9,283	1,547
	6	1,531,938,300	255,323,050	42,207,000	8,884	1,481
	計	6,723,250,500	186,756,958	237,370,000	56,843	1,579
岩見沢市	1	944,261,700	157,376,950	46,614,000	14,588	2,431
	2	1,188,426,000	198,071,000	48,314,000	15,056	2,509
	3	1,070,539,000	178,423,167	42,864,000	12,030	2,005
	4	1,184,226,900	197,371,150	53,252,000	14,636	2,439
	5	1,205,152,200	200,858,700	57,954,000	15,036	2,506
	計	5,592,605,800	186,420,193	248,998,000	71,346	2,378
合 計		24,841,186,000	188,190,803	1,045,394,000	304,713	2,308

## 昭和62年度ホッカイドウ競馬成績

競馬場	回別	売 得 金 額 (円)		賞 金 額 (円)	入 場 人 員 (場内:人)	
		1 開 催	1 日 平 均		1 開 催	1 日 平 均
函 館	1	1,084,081,700	216,816,340	70,740,000	11,145	2,229
	2	1,365,123,800	227,520,633	70,290,000	9,484	1,581
	計	2,449,205,500	222,655,045	141,030,000	20,629	1,875
帯 広	1	984,223,900	164,037,317	70,920,000	7,508	1,251
	2	765,110,100	127,518,350	78,390,000	8,463	1,411
	3	1,252,254,000	208,709,000	67,860,000	8,360	1,393
	計	3,001,588,000	166,754,889	217,170,000	24,331	1,352
旭 川	1	1,070,131,000	178,355,167	69,390,000	9,812	1,635
	2	1,245,326,800	207,554,467	71,910,000	8,892	1,482
	3	1,339,420,500	223,236,750	75,150,000	8,092	1,349
	4	1,102,193,600	183,698,933	74,790,000	13,039	2,173
	計	4,757,071,900	198,211,329	291,240,000	39,835	1,660
札 幌	1	1,834,003,500	305,667,250	77,850,000	27,502	4,584
	2	1,733,786,800	288,964,467	75,600,000	26,604	4,434
	3	1,784,661,700	297,443,617	80,730,000	34,657	5,776
	4	1,861,453,200	310,242,200	103,950,000	30,910	5,152
	5	1,707,376,300	284,562,717	94,950,000	26,569	4,428
	6	1,750,351,500	291,725,250	81,090,000	22,878	3,813
	7	2,085,709,900	347,618,317	97,110,000	29,504	4,917
	8	2,045,713,200	340,952,200	96,480,000	25,369	4,228
	計	14,803,056,100	308,397,002	707,760,000	223,993	4,667
合 計		25,010,921,500	247,632,886	1,357,200,000	308,788	3,057

※函館第1開催は5日間

# 昭和62年度 リーディングトレーナー・ジョッキー



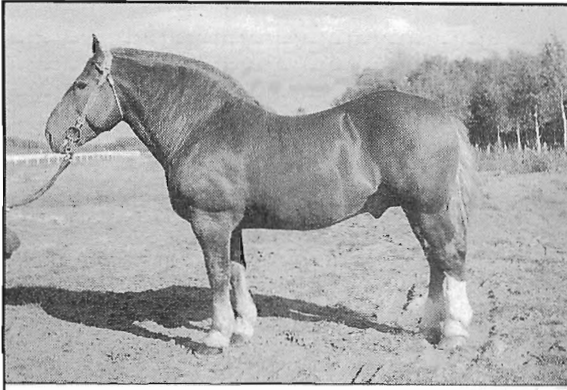
## ☆リーディングトレーナー

- |     |       |
|-----|-------|
| 第1位 | 大野英夫  |
| 第2位 | 松井浩   |
| 第3位 | 尾ヶ瀬富雄 |
| 第4位 | 林正男   |
| 第5位 | 橋本豊   |



## ☆リーディングジョッキー

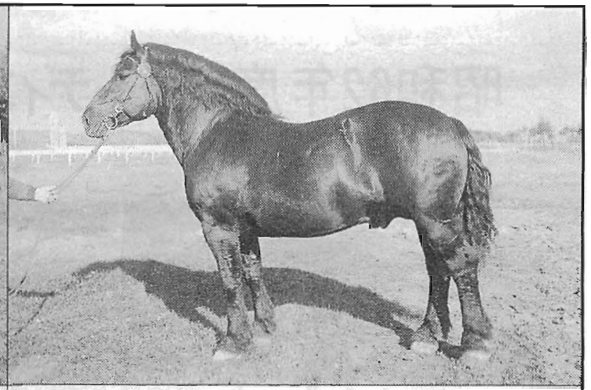
- |     |       |
|-----|-------|
| 第1位 | 西康幸   |
| 第2位 | 久田守   |
| 第3位 | 藤本匠   |
| 第4位 | 夏井功   |
| 第5位 | 大河原和雄 |



### アオヤマトップ号

- 1. 生年月日 昭和53年4月20日
- 2. 生産地 当別町
- 3. 生産者 鶴巻幸次
- 4. 通算成績 157戦16勝
- 5. 取得賞金額 15,318,000円
- 6. 性・毛色 牡栗
- 7. 血統

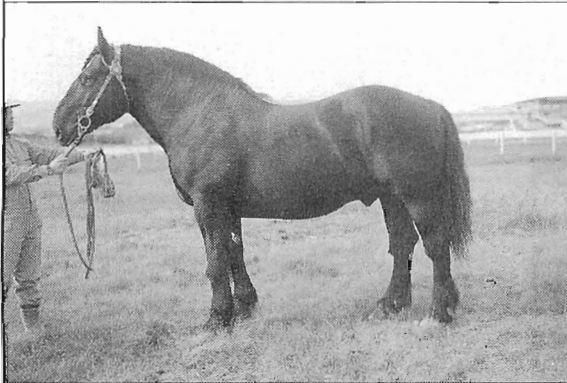
半血 第一エタロン — ベルジ マルゼンストロングホース  
 半血 第一清流



### アサヒボシ号

- 1. 生年月日 昭和53年4月26日
- 2. 生産地 美深町
- 3. 生産者 田中 一
- 4. 通算成績 136戦15勝
- 5. 取得賞金額 8,936,000円
- 6. 性・毛色 牡青
- 7. 血統

ベル系 北栄 — ベル 栄春  
 半血 北姫

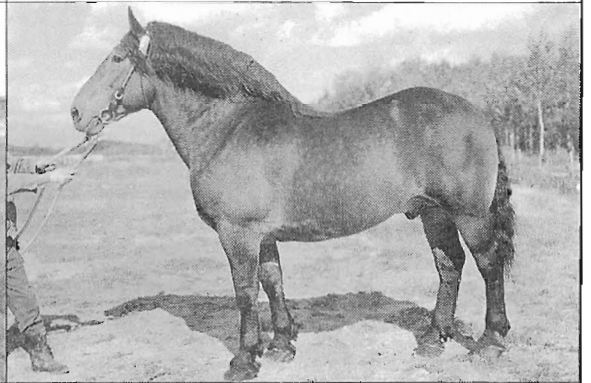


### イワイサミ号

- 1. 生年月日 昭和53年4月10日
- 2. 生産地 旭川市
- 3. 生産者 岩城米光
- 4. 通算成績 144戦20勝
- 5. 取得賞金額 48,873,000円
- 6. 性・毛色 牡青
- 7. 血統

半血 菅勇 — ベル 菅敬  
 半血 前進

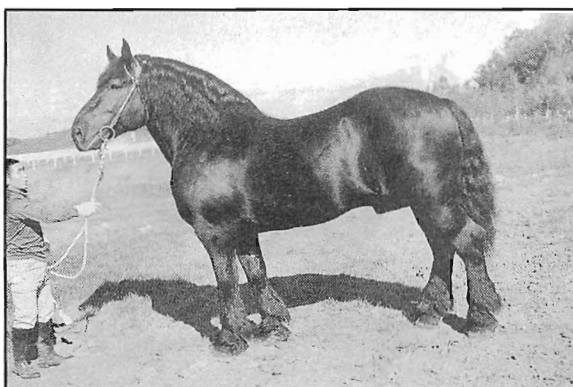
地全協賞・帯広大賞典・市菅若見沢記念2回



### オパール号

- 1. 生年月日 昭和53年4月5日
- 2. 生産地 大樹町
- 3. 生産者 下村竹夫
- 4. 通算成績 141戦11勝
- 5. 取得賞金額 18,543,000円
- 6. 性・毛色 牡鹿
- 7. 血統

半血 宝駿 — 半血 タカラコマ  
 ベル 水駿

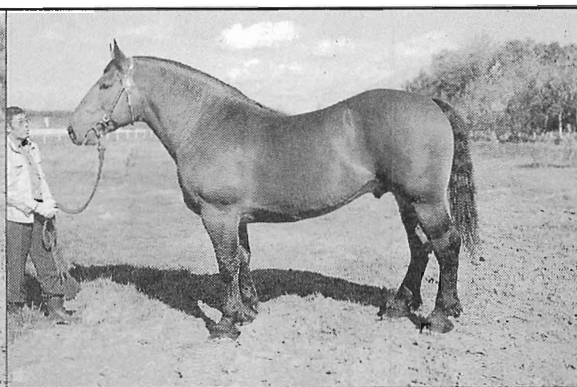


### カシヨー号

1. 生年月日 昭和53年4月21日
2. 生産地 白糠町
3. 生産者 古内 要一郎
4. 通算成績 174戦21勝
5. 取得賞金額 19,059,000円
6. 性・毛色 牡 青
7. 血統

ベル 香 勝

— [ベル ボルール  
ベル系 第四香蘭

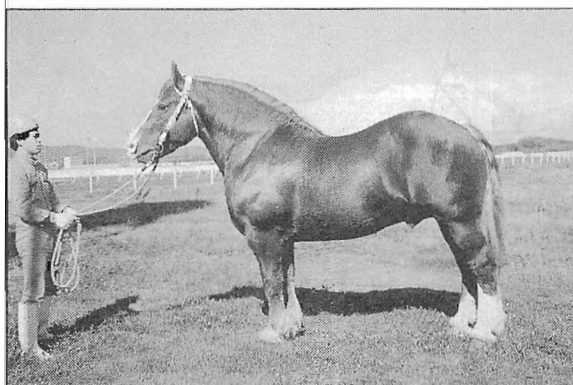


### カズエー号

1. 生年月日 昭和53年4月1日
2. 生産地 幕別町
3. 生産者 高井 進
4. 通算成績 160戦14勝
5. 取得賞金額 13,109,000円
6. 性・毛色 牡 鹿
7. 血統

半血 宝トップ

— [半血 タカラコマ  
半血 報徳トップ

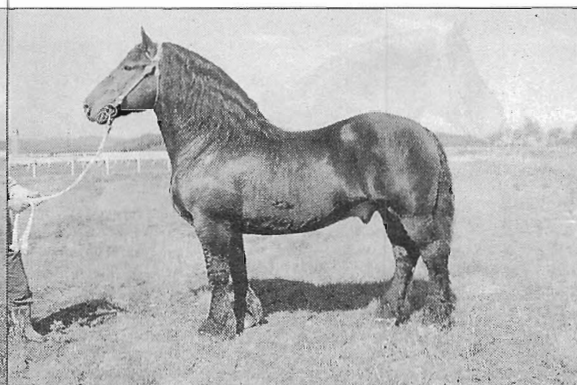


### カチオーザン号

1. 生年月日 昭和53年4月18日
2. 生産地 上士幌町
3. 生産者 後藤 秀隆
4. 通算成績 164戦20勝
5. 取得賞金額 10,208,000円
6. 性・毛色 牡 栗
7. 血統

ブル系 秀 山

— [ブル エムバタブル  
半血 清 姫

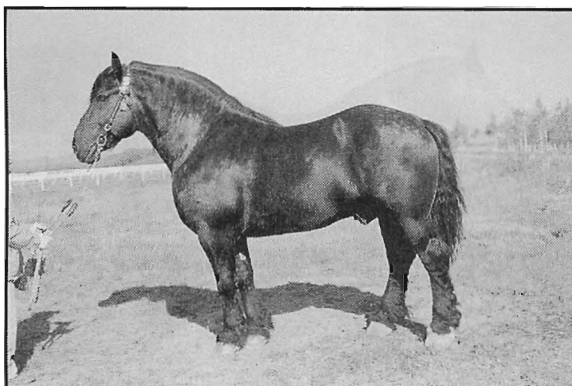


### キョクユザン号

1. 生年月日 昭和53年4月10日
2. 生産地 佐呂間町
3. 生産者 近藤 徹
4. 通算成績 163戦15勝
5. 取得賞金額 10,216,000円
6. 性・毛色 牡 鹿
7. 血統

半血 盤 竜

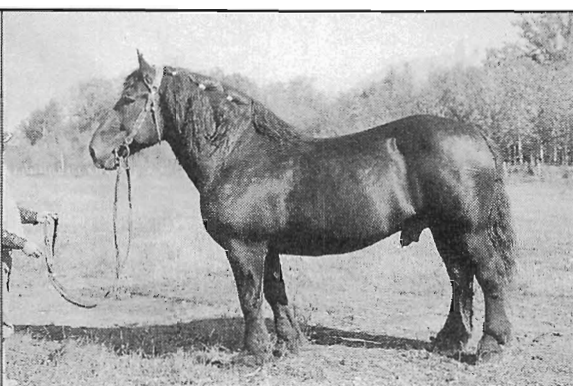
— [ベル 二世ロッシーニ  
半血 春 風



### スズホマレ号

- 1. 生年月日 昭和53年4月17日
- 2. 生産地 幕別町
- 3. 生産者 佐渡忠孝
- 4. 通算成績 147戦23勝
- 5. 取得賞金額 18,992,000円
- 6. 性・毛色 牡青
- 7. 血統

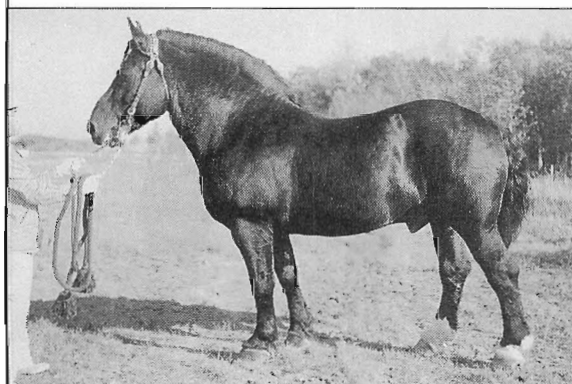
半血 ベルジャン二世 — { ベルジ ジャンデュマレイ  
 ベル イデュメー八世



### タケシ号

- 1. 生年月日 昭和53年4月12日
- 2. 生産地 夕張市
- 3. 生産者 松田昇
- 4. 通算成績 167戦19勝
- 5. 取得賞金額 17,253,000円
- 6. 性・毛色 牡青
- 7. 血統

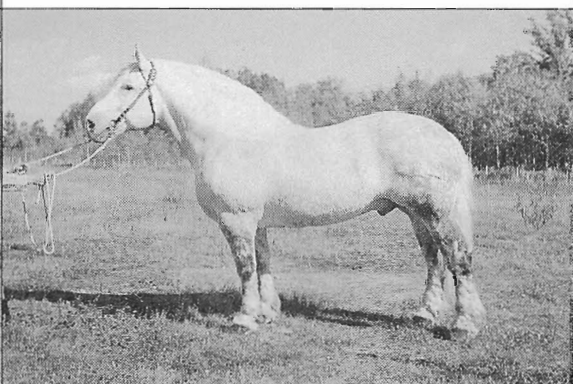
ベル系 初駒 — { ベル系 優威  
 ベル 初春



### タケヨシ号

- 1. 生年月日 昭和53年3月24日
- 2. 生産地 北見市
- 3. 生産者 八木沼佐藏
- 4. 通算成績 132戦17勝
- 5. 取得賞金額 12,629,500円
- 6. 性・毛色 牡青
- 7. 血統

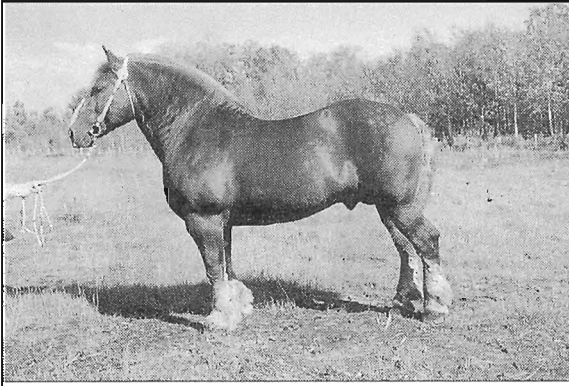
半血 武芳 — { ブル 蝶武  
 半血 幸姫



### ダイニオノショウ号

- 1. 生年月日 昭和53年5月10日
- 2. 生産地 上湧別町
- 3. 生産者 小野勝一
- 4. 通算成績 146戦24勝
- 5. 取得賞金額 26,516,000円
- 6. 性・毛色 牡芦
- 7. 血統

ベル系 第二オノショウ — { ベル 樞朝  
 ベル系 北姫

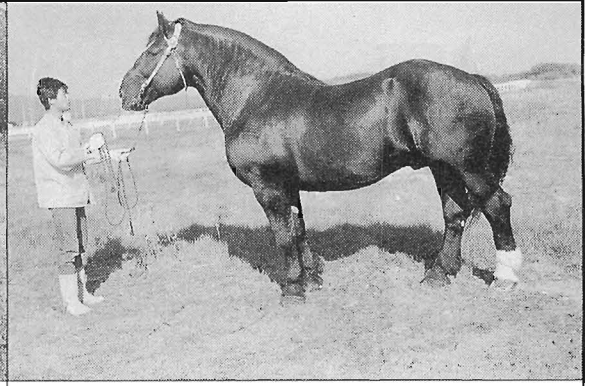


### チカラボシ号

1. 生年月日 昭和53年5月5日
2. 生産地 鹿追町
3. 生産者 矢萩一郎
4. 通算成績 161戦14勝
5. 取得賞金額 11,798,000円
6. 性・毛色 牡栗
7. 血統

半血 勇駒

— ベルジ ジャンデュマレイ  
— 半血 第二福娘

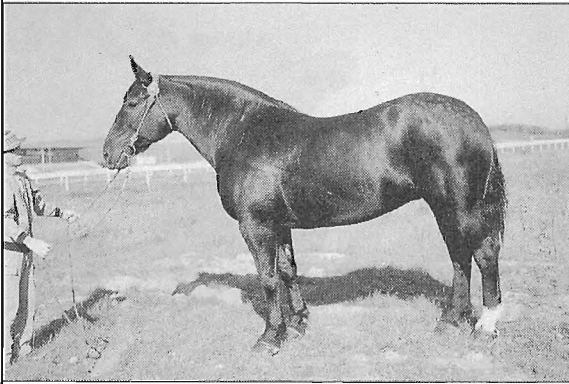


### トキノオーザ号

1. 生年月日 昭和53年4月2日
2. 生産地 遠軽町
3. 生産者 佐藤峯雄
4. 通算成績 164戦19勝
5. 取得賞金額 17,575,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

ベル系 朝榮

— ペル 楓朝  
— 半血 榮染

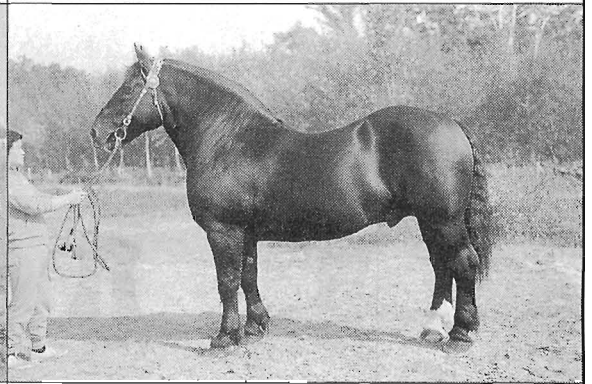


### トップメーカー号

1. 生年月日 昭和53年4月18日
2. 生産地 遠軽町
3. 生産者 筒井弘義
4. 通算成績 142戦17勝
5. 取得賞金額 8,641,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血 第一呂雄

— ペル 楓朝  
— 半血 第一呂花



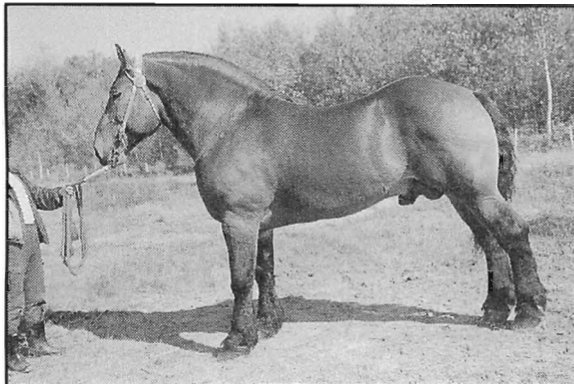
### トヨタサカイ号

1. 生年月日 昭和53年4月2日
2. 生産地 穂別町
3. 生産者 種田勝之進
4. 通算成績 161戦22勝
5. 取得賞金額 13,583,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血 富昭

— ペル系 ホクトサカエ  
— 半血 勝登



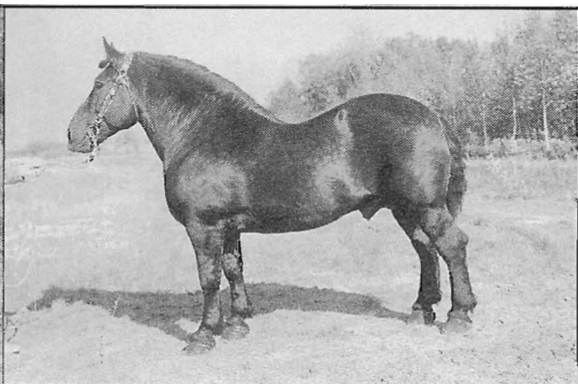


### ニイカップオー号

1. 生年月日 昭和53年4月12日
2. 生産地 新冠町
3. 生産者 松本清志
4. 通算成績 84戦31勝
5. 取得賞金額 20,601,000円
6. 性・毛色 牡鹿
7. 血統

半血 勇 秀

— ブル キプロク  
— ペル系 秀姫の一

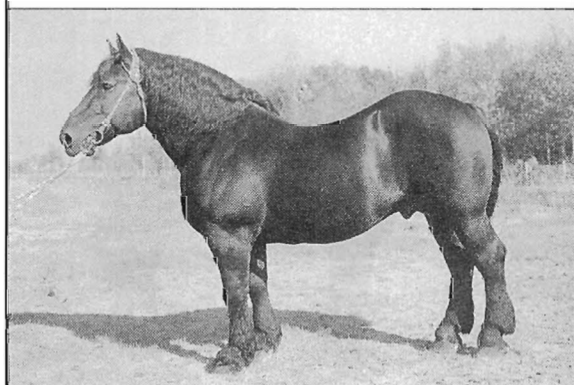


### ニッショウツバメ号

1. 生年月日 昭和53年4月25日
2. 生産地 日高町
3. 生産者 密石秀雄
4. 通算成績 169戦22勝
5. 取得賞金額 16,330,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血 疾 風

— ペル 産 日  
— 半血 緋 姫



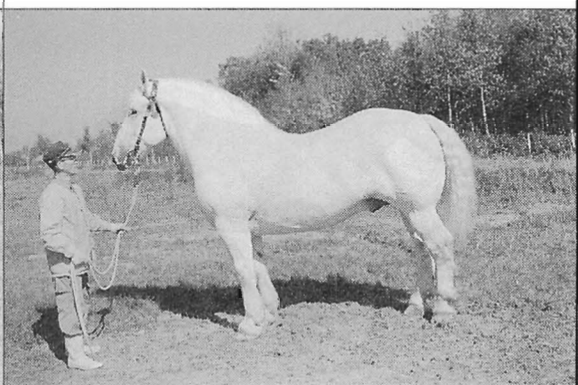
### ハイスピード号

1. 生年月日 昭和53年4月24日
2. 生産地 白糠町
3. 生産者 藤田竹藏
4. 通算成績 114戦25勝
5. 取得賞金額 73,285,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血 花 山

— ペル ボールール  
— 半血 宝 花

つつじ賞・青雲賞・ばんえい優勝・ポプラ賞  
菊花賞・大雪賞・旭シルバーカップ・市営岩見沢記念  
農林水産大臣賞典・ホタルの光賞



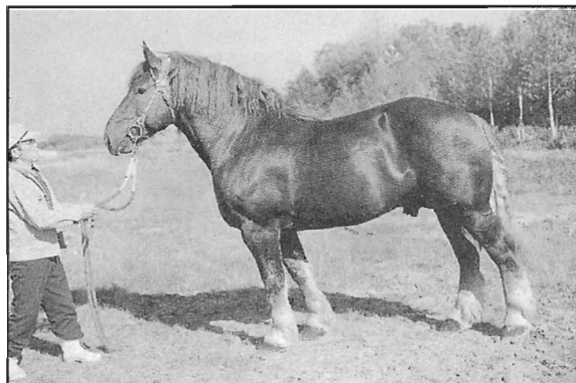
### ハクマサヒカリ号

1. 生年月日 昭和53年5月17日
2. 生産地 池田町
3. 生産者 太田和治
4. 通算成績 152戦23勝
5. 取得賞金額 41,354,500円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血 夕 雅

— ブル キプロク  
— 半血 雅 勇

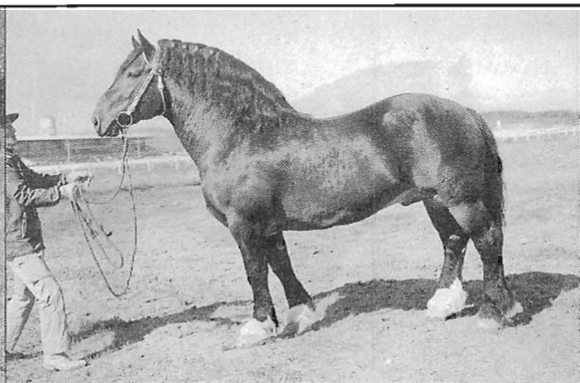
農林水産大臣賞典



### ヒロタカラ号

- 1. 生年月日 昭和53年4月10日
- 2. 生産地 池田町
- 3. 生産者 館盛 清
- 4. 通算成績 171戦21勝
- 5. 取得賞金額 21,989,000円
- 6. 性・毛色 牡栗
- 7. 血統

半血 第五コマリュウ — 半血 タカラコマ  
半血 紅栄

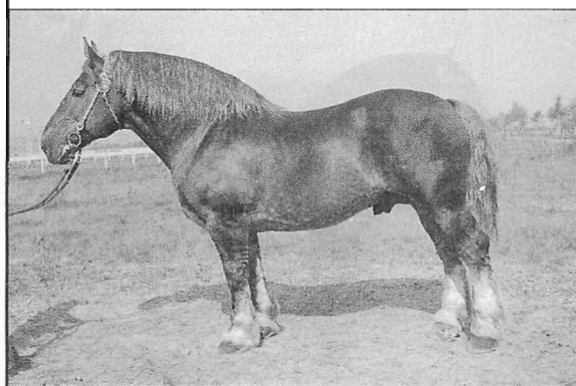


### ホマレベンケイ号

- 1. 生年月日 昭和53年6月1日
- 2. 生産地 東蕨琴村
- 3. 生産者 吉井 勇
- 4. 通算成績 167戦24勝
- 5. 取得賞金額 21,782,000円
- 6. 性・毛色 牡鹿
- 7. 血統

半血 北の湖

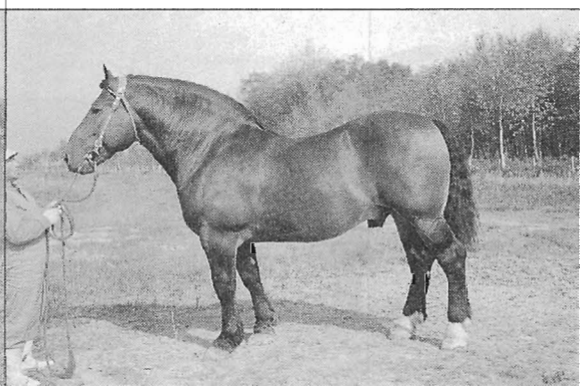
— ペル 二世 ロッシーニ  
半血 宝 勇  
大雪賞



### マツノパンサー号

- 1. 生年月日 昭和53年5月1日
- 2. 生産地 幕別町
- 3. 生産者 東原 武夫
- 4. 通算成績 170戦19勝
- 5. 取得賞金額 24,246,000円
- 6. 性・毛色 牡栗
- 7. 血統

半血 北の海 — 半血 タカラコマ  
半血 健宝  
大雪賞

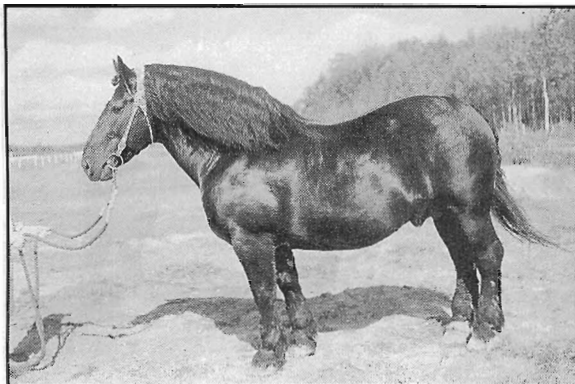


### マルトカチヨシ号

- 1. 生年月日 昭和53年4月22日
- 2. 生産地 厚真町
- 3. 生産者 浅野 勝喜
- 4. 通算成績 163戦19勝
- 5. 取得賞金額 19,179,000円
- 6. 性・毛色 牡鹿
- 7. 血統

半血 富士の力

— ベルジ マルゼンストロングホース  
半血 北の富士

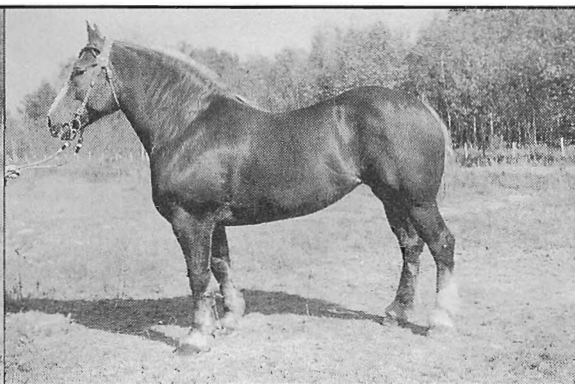


### ヤマトオーザ号

1. 生年月日 昭和53年4月1日
2. 生産地 豊頃町
3. 生産者 松崎和身
4. 通算成績 156戦18勝
5. 取得賞金額 12,923,500円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血家風

- 半血 タカラコマ
- 半血 第八千代姫

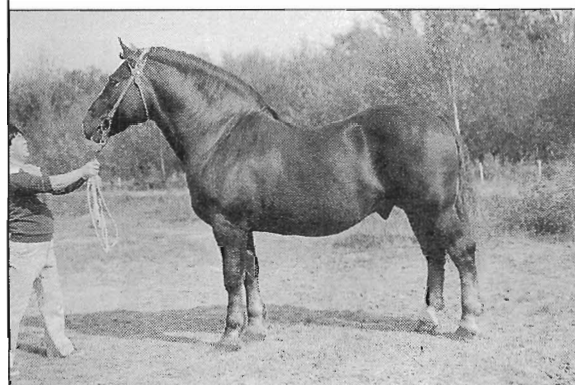


### リキヒメ号

1. 生年月日 昭和53年4月15日
2. 生産地 足寄町
3. 生産者 平野紋三
4. 通算成績 158戦21勝
5. 取得賞金額 13,894,000円
6. 性・毛色 牝栗
7. 血統

ブル系 第二姫

- ブル ホヌール
- 半血 第二八重姫



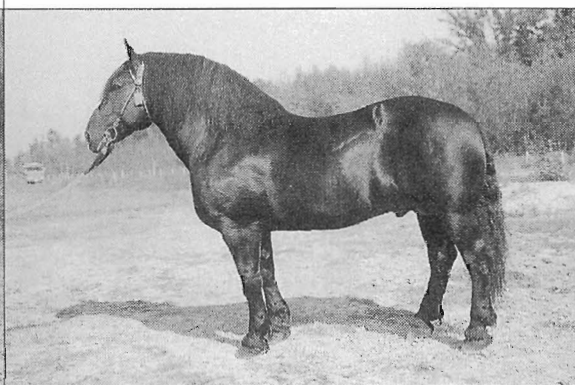
### リュウハヤテ号

1. 生年月日 昭和53年4月1日
2. 生産地 池田町
3. 生産者 北村治嘉
4. 通算成績 149戦24勝
5. 取得賞金額 30,692,000円
6. 性・毛色 牡鹿
7. 血統

半血 ジャンデマレイ二世

- ベルジ ジャンデマレイ
- 半血 清流

ポブラ賞



### ロイヤルキング号

1. 生年月日 昭和53年5月12日
2. 生産地 弟子屈町
3. 生産者 渡辺三郎
4. 通算成績 138戦21勝
5. 取得賞金額 46,778,000円
6. 性・毛色 牡青
7. 血統

半血 銅花

- ブル 銅柑
- ベル系 藤花

ナナカマド賞・ぼんえい文月賞・大雪賞  
地全協賞・市営帯広記念





昭和63年 3 月

札幌市北区北10条西 4 丁目北海道畜産会館 2 階 (TEL) 代表747—5345